

昭和63年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

三尻遺跡群 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡

1989

埼玉県熊谷市教育委員会

序 文

熊谷市は埼玉県北部の中心であり、歴史的にもゆかりの深い地域であります。三尻地区は、市域の西部にあたり、大字三ヶ尻・拾六間・新堀新田の3地域を合わせた旧三尻村であり、縄文時代から歴史時代にわたる集落跡、多くの古墳、中世の館跡、墓地跡などの存在が知られています。

三尻地区の西側には、市指定文化財の名勝である観音山があり、孤立した丘陵で、この付近から縄文時代の遺跡がみられ、古くから開けていたことがわかります。

観音山の北側にみられる自然堤防上では古墳時代、奈良時代・平安時代の集落跡が数多く発見されており、古墳時代以降、開発が進み、人々が多く住んだと思われます。

上述のように、当地区には数多くの遺跡があり、貴重な文化遺産として、後世に残すことが第一に計られるべきであります。

しかし、昭和56年度から県営は場整備事業が継続して実施されているので、工事の性格上やむをえず破壊される部分の記録保存を行うため、発掘調査を実施しております。

本書は、昭和61年度に実施された社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡の発掘調査の成果をまとめて報告するものです。

発掘調査によって得られた資料は、貴重な文化遺産として、学術研究、学校や社会教育に資するものであると考えます。こうした調査・報告を契機として、多くの市民の方々が、埋蔵文化財保護について、より一層のご理解とご協力くださることを願ってやみません。

最後になりましたが、県文化財保護課、深谷土地改良事務所、熊谷西部土地改良事務所、地元三尻地区住民の方々からご指導・ご協力いただきましたことに、深く感謝の意を表します。

平成元年3月

熊谷市教育委員会
教育長 関根幸夫

例　　言

1. 本書は、埼玉県熊谷市大字三ヶ尻字社裏673-1他に所在する社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、県営は場整備事業（熊谷西部地区）に伴う事前記録保存のための発掘調査である。
3. 調査の段階において、社裏遺跡をA～E区の5区に分けたが、A・B・C区を社裏遺跡、D区を社裏北遺跡、E区を社裏南遺跡とする。
4. 社裏遺跡は、国庫・県費補助事業により、社裏北遺跡・社裏南遺跡は、深谷土地改良事務所の委託事業により、それぞれ調査を実施した。
5. 発掘調査期間は下記のとおりである。

社裏遺跡	昭和61年12月15日～昭和62年2月16日
社裏北遺跡・社裏南遺跡	昭和61年9月2日～昭和61年12月13日
6. 発掘調査の担当、本書の執筆・編集は金子正之が行った。
7. 発掘調査の組織は次のとおりである。

調査主体者 熊谷市教育委員会

調査担当者 熊谷市教育委員会社会教育課主任 金子正之

事務局	*	課長	茂木 優（昭和61年度）
	*	*	高田普通（昭和63年度）
	*	課長補佐	高田普通（昭和61年度）
	*	*	小林武夫（昭和63年度）
	*	係長	北 俊明
	*	主査	山川 建（昭和61年度）
	*	*	森田博明（昭和63年度）
	*	主任	米澤ひろみ
	*	主事	権田宣行（昭和63年度）

8. 人骨・馬骨・馬骨鑑定は、早稲田大学考古学研究室金子浩昌氏にお願いし、玉積をいただいた。
9. 陶磁器については、埼玉県立歴史資料館酒井清治氏、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団浅野晴樹氏、小俣悟氏に御教授を受け、古錢については、埼玉県立さきたま資料館若松良一氏に御教授を受けた。各氏に対し、記して感謝いたします。
10. 本書中、出土遺物実測図の中心線は、遺物を回転させず実測したもの：実線、180度回転させたもの：一点鎖線というように区別している。
11. 遺構図の中で、土壙はD、火葬墓はK、溝はM、ビットはP、川原石はS、遺物の位置図の中で、鉄器は▲、土器は■、古錢は●、石器は□とそれぞれ記号化した。
12. 遺構図と写真図版の遺物の番号は、挿図番号を示す。例えば、1-2は第1図の2の遺物を示す。
13. 遺物の実測図の中で、稚は□、黒斑は■、煤は■と表現した。
14. 本文中の「どころ」について、骨が検出されたものは「土壙」、骨が検出されなかったものは「土塙」と漢字を使いわけた。人骨の残存状態がよいものは、土葬墓と呼称した。

目 次

序文.....	I
例言.....	II
目次.....	III
挿図目次.....	IV
図版目次.....	V
表目次.....	V
Ⅰ. 発掘調査に至るまでの経過.....	1
Ⅱ. 発掘調査の経過.....	1
Ⅲ. 遺跡の立地と環境.....	2
Ⅳ. 社裏遺跡.....	4
1. 遺跡の概観.....	5
2. 遺構と遺物.....	5
(1)社裏遺跡A区.....	5
(2)社裏遺跡B区.....	8
(3)社裏遺跡C区.....	9
Ⅴ. 社裏北遺跡.....	14
1. 遺跡の概観.....	14
2. 遺構と遺物.....	14
Ⅵ. 社裏南遺跡.....	44
1. 遺跡の概観.....	44
2. 遺構と遺物.....	44
Ⅶ. 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡出土の人骨及び馬歯等について.....	45

早稲田大学考古学研究室 金子浩昌

挿図目次

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 第1図 遺跡分布図 | 第37図 23号土壤 |
| 第2図 遺跡位置図 | 第38図 23・24号土壤出土遺物 |
| 第3図 A区全測図 | 第39図 24・25号土壤 |
| 第4図 1号土葬墓 | 第40図 26～64号土壤・1～3号ピット |
| 第5図 2号土葬墓 | 第41図 26～64号土壤・1～3号ピット断面図(1) |
| 第6図 1号土葬墓出土遺物 | 第42図 26～64号土壤・1～3号ピット断面図(2) |
| 第7図 1～3号土塚 | 第43図 32号土壤 |
| 第8図 1号溝 | 第44図 35号土壤 |
| 第9図 B区1号集石遺構 | 第45図 35号土壤出土遺物 |
| 第10図 B区全測図 | 第46図 26～64号土壤・1～3号ピット出土遺物 |
| 第11図 C区全測図 | 第47図 31・34・36号土壤及びグリッド出土古銭 |
| 第12図 C区1・2号集石遺構 | 第48図 45号土壤出土古銭(1) |
| 第13図 C区3号集石遺構 | 第49図 45号土壤出土古銭(2) |
| 第14図 社裏遺跡出土遺物 | 第50図 42・50号土壤出土古銭 |
| 第15図 社裏北遺跡全測図 | 第51図 1号火葬墓 |
| 第16図 1号土壤 | 第52図 グリッド出土遺物(1) |
| 第17図 2・3号土壤 | 第53図 グリッド出土遺物(2) |
| 第18図 4・5号土壤 | 第54図 グリッド出土遺物(3) |
| 第19図 5・7号土壤及び6～8号土壤付近出土遺物 | 第55図 社裏南遺跡全測図 |
| 第20図 6・7・8号土壤 | 第56図 1号火葬墓 |
| 第21図 6～8号土壤付近出土古銭 | 第57図 2号火葬墓 |
| 第22図 9・11・13号土壤出土遺物 | 第58図 1号土塚 |
| 第23図 9～14号土壤 | 第59図 社裏南遺跡出土遺物 |
| 第24図 9号土壤出土古銭(1) | 第60図 社裏南遺跡出土古銭 |
| 第25図 9号土壤出土古銭(2) | |
| 第26図 9号土壤出土古銭(3) | |
| 第27図 9号土壤出土古銭(4) | |
| 第28図 13号土壤出土古銭 | |
| 第29図 15号土壤 | |
| 第30図 16・17・18号土壤 | |
| 第31図 17・18号土壤出土遺物 | |
| 第32図 19号土壤 | |
| 第33図 19号土壤出土遺物 | |
| 第34図 20・21・22号土壤 | |
| 第35図 21号土壤出土遺物 | |
| 第36図 21号土壤出土古銭 | |

図版目次

図版1 社裏遺跡航空写真	図版6—1 24・25号土壤
2—1 社裏遺跡景	2 26~64号土壤
2 社裏遺跡A区	3 26~64号土壤
3 1号土葬墓	4 26~36・42号土壤
4 1号土葬墓	5 48~53号土壤
5 1号土葬墓	6 39号土壤出土遺物 (46—5)
6 2号土葬墓	7 42号土壤出土遺物 (46—7)
7 2号土葬墓	8 48号土壤出土遺物 (46—12)
8 2号土葬墓	図版7—1 60号土壤出土遺物 (46—17)
3—1 社裏遺跡B区全景	2 62・63号土壤出土遺物 (46—18・23・25)
2 B区1号集石遺構	3 63号土壤出土遺物 (46—22)
3 1号集石遺構出土骨(3)	4 63号土壤付近出土遺物 (46—21)
4 1号集石遺構出土馬齒(6)	5 23号土壤出土遺物 (38—1)
5 社裏遺跡C区全景	6 1号ピット出土遺物 (46—19・20)
6 C区3号集石遺構	7 杜裏南遺跡
7 社裏北遺跡全景	8 杜裏南遺跡1号火葬墓
8 9~25号土壤	図版8 杜裏遺跡A区1号土葬墓、杜裏遺跡グリッド、杜裏北遺跡5・9号土壤出土遺物
図版4 杜裏北遺跡航空写真	図版9 杜裏北遺跡9・11・17・18・21・39・42・46・48・60・63号土壤・1号ピット出土遺物
5—1 5号土壤出土遺物	図版10 杜裏北遺跡45号土壤・グリッド出土遺物
2 9~11号土壤	
3 9号土壤出土古錢	
4 9号土壤出土古錢	
5 13号土壤出土遺物 (22—10)	
6 15~18号土壤	
7 18号土壤出土遺物 (31—5)	
8 21号土壤出土遺物 (No. 2)	

表 目 次

表1 26~64号土壤一覧表

I. 発掘調査に至るまでの経過

熊谷市は、昭和56年度から三尻地区において、埼玉県営は場整備事業が実施され、埋蔵文化財を記録保存するため、継続的に発掘調査を行っている。

昭和61年6月25日付け深地第547号で埼玉県深谷土地改良事務所から、県営は場整備事業熊谷西部地区内にある埋蔵文化財の取り扱いについて協議文書が提出され、昭和61年8月29日付け教文第436号において埼玉県教育委員会から、発掘調査を実施する旨回答がなされた。

これを受けて熊谷市教育委員会が、国庫、県費補助金、農政負担金および市費をもって調査を実施することになった。

事業計画による工事は、微高地上にある桑畠の抜根整地、水田の整地および道水路のパイプ埋設工事であった。面的に削平される部分は、トレンチ調査によって土層堆積状態、遺跡範囲の確認をしてからグリッド方式で調査を行い、水路部分は、トレンチ調査により発掘を実施することにした。

発掘調査は、昭和61年9月2日から開始された。

II. 発掘調査の経過

社裏遺跡は、トレンチ調査によって遺跡の範囲を確認したのち、部分的に調査区を拡張し、田中神社の南側部分をA区、南西部分をB区、南東部分をC区と称して調査を実施した。それぞれの地区において、重機によって表土剥ぎを行った後、1辺5mのグリッド方式を用いて調査を行い、南西隅をA-1として、北へ1、2、3…、東へA、B、C…とし、Aラインは、南から北へA-1、A-2、A-3…と呼称した。Bライン以東もAラインと同様に呼称してグリッド設定を行った。

重機による表土剥ぎの後にも、人力によって表土剥ぎを行いながら精査を実施して、遺構確認を行った。A区は土葬墓、土塚、溝跡、B区とC区は集石遺構を検出し、各遺構ごとに調査を行った。遺構ごとに手掘りを行い、遺物の写真撮影・実測をしたのち、遺物の取り上げを行った。遺構の写真撮影・実測を実施し、最後に全体写真を撮影し、全測図の実測を行った。

社裏北遺跡も、トレンチ調査によって遺跡の範囲を確認したのち、調査区を設定して発掘を行った。重機による表土剥ぎを行った後、1辺5mのグリッド方式を用いて調査を行うため、北西隅をA-1として、東へ1、2、3…、南へA、B、C…とし、Aラインは、西から東へA-1、A-2、A-3…と呼称した。Bライン以南もAラインと同様に呼称してグリッド設定を行った。

重機による表土剥ぎの後も、人力によって表土剥ぎを行いながら精査を行い、土壤・火葬墓を検出し、各遺構ごとに調査を実施した。社裏遺跡と同じように、遺構ごとに手掘り→遺物の写真撮影→実測→取り上げ→遺構の写真撮影→実測を行い、最後に全体の実測・写真撮影を実施した。

社裏南遺跡も、トレンチ調査により遺跡の範囲確認を行い、調査区を設定して発掘を実施した。重機による表土剥ぎを行った後、グリッド設定は社裏遺跡と同じ方式を用いて行い、1辺5mのグリッド方式で、南西隅をA-1と呼称して設定した。表土剥ぎの後、遺構確認を行うため精査を実施し、火葬墓、土塚を検出して、各遺構ごとに調査を実施した。遺構ごとの調査は社裏・社裏北遺跡と同様に実施し、最後に全体の実測・写真撮影を行った。

本調査によって、中世の墓地の遺構・遺物が数多く検出され、昭和62年2月10日に現場での調査を終了した。

III. 遺跡の立地と環境

社裏遺跡は埼玉県熊谷市大字三ヶ尻字社裏673—1番地他、社裏北遺跡は熊谷市大字三ヶ尻字社裏632—1他。社裏南遺跡は熊谷市大字三ヶ尻字社裏696他に、それぞれ所在しており、各遺跡とも、JR高崎線龍原駅の南方約3km、荒川から北へ約1kmの所に位置する。

社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡の所在する三ヶ尻地区は、熊谷市の西部にあたり、北西部に櫛引台地があり、南側から東側にかけて熊谷低地が広がっている。各遺跡は、熊谷低地に位置し、自然堤防上に立地している。

社裏遺跡は、標高46m前後を測り、畑地・桑畠となっていて、社裏北遺跡は、標高約45.6mを測り、水田となっていたり、社裏南遺跡は、標高約47mを測り、桑畠となっていた。

三ヶ尻地区において、縄文時代の遺跡は櫛引台地上に発見されており、三ヶ尻林遺跡・三ヶ尻天王遺跡である。三ヶ尻林遺跡からは、縄文前期の集落が検出され、三ヶ尻天王遺跡からは、縄文中期～後期にかけての集落が発見されている。弥生時代は、発掘ではなく偶然に発見されたものであり、遺構が明確ではないが、須和田期の壺が出土している三ヶ尻上古遺跡がある。三ヶ尻上古遺跡も台地上に存在しているが、古墳時代になると、古墳は台地上に築かれ、集落は台地ばかりでなく、熊谷低地の自然堤防上にも営まれるようになる。台地上の集落は、



第1図 遺跡分布図

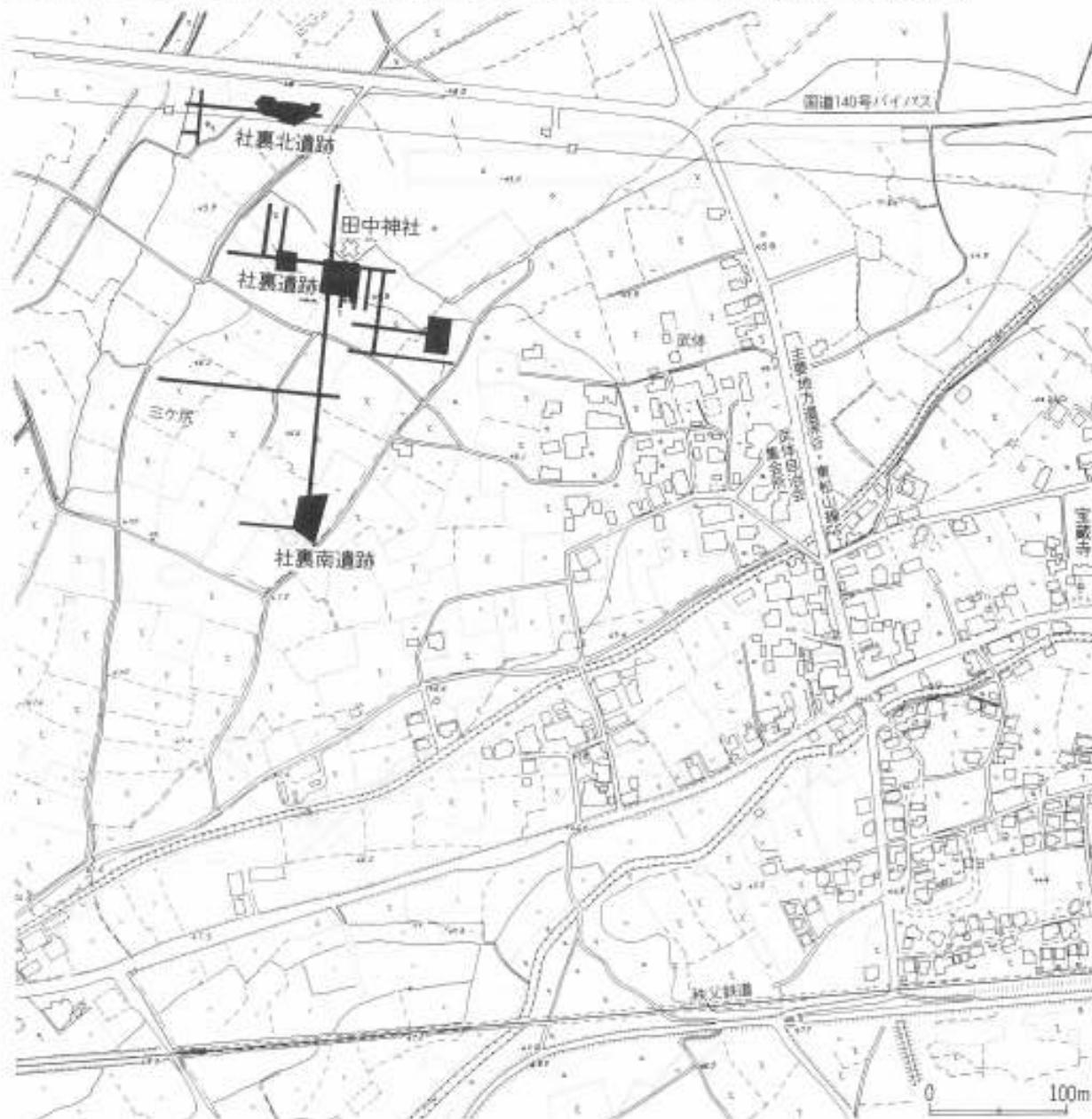
三ヶ尻天王遺跡や三尻中学校遺跡であり、いずれも古墳時代後期のものである。低地の自然堤防上の集落は、埼玉県立熊谷西高校の所在する樋ノ上遺跡やその南西に広がりをもつ上辻・下辻遺跡がある。

奈良・平安時代の住居跡は、古墳時代後期と同じ遺跡から数多く検出され、集落が継続して営まれたと考えられる。

中世に入ると、台地上には三ヶ尻天王遺跡で墓地群が検出され、低地の自然堤防上には黒沢館跡が発見された。金淨寺跡と言われている樋ノ上遺跡・般若寺跡と言われている若松遺跡は、それぞれ自然堤防上に立地しており、中世の土葬墓・火葬墓・集石遺構・青磁・白磁・瀬戸などの陶磁器も出土している。

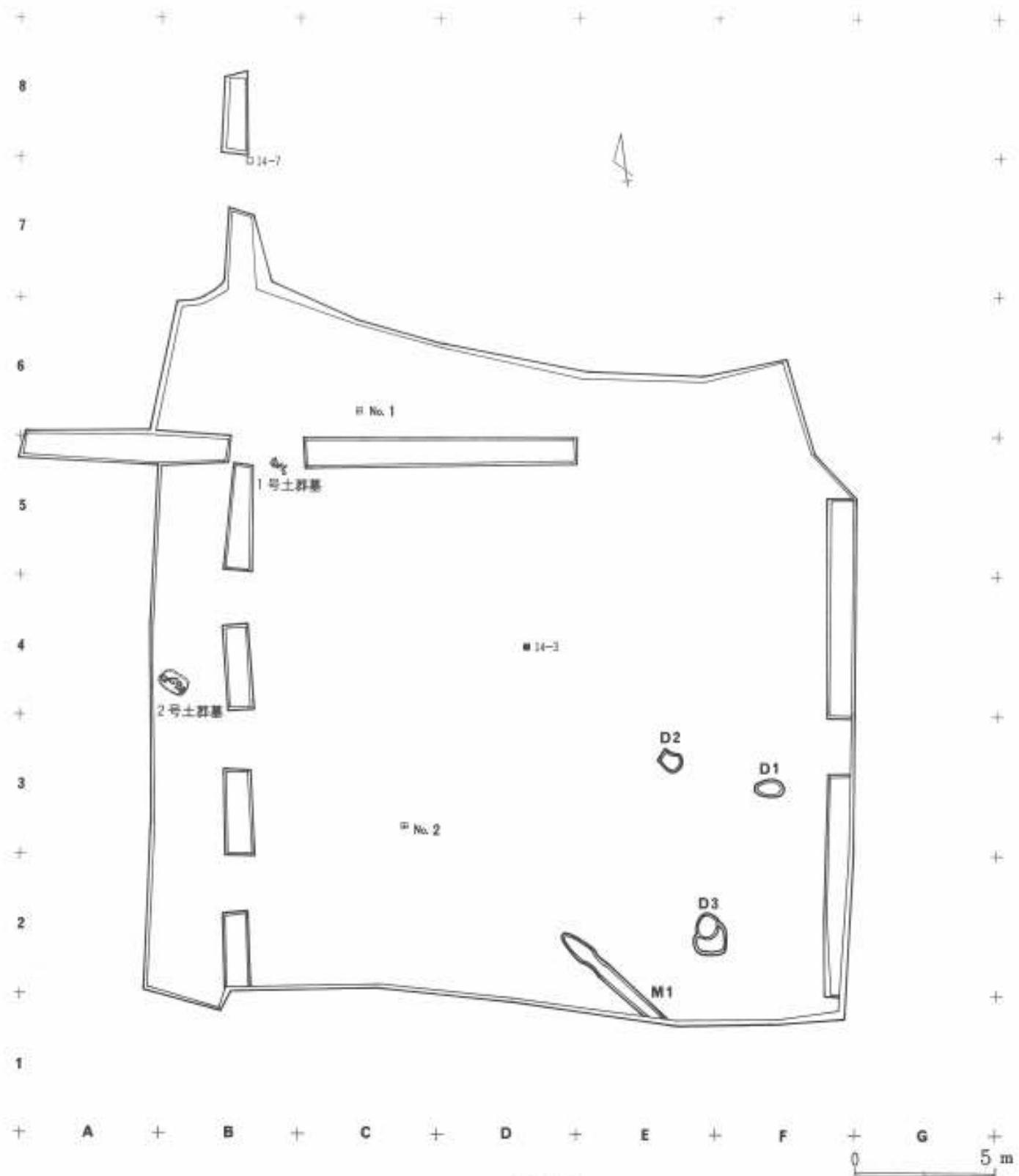
近世において、江戸初期の塚・馬埋葬遺構が検出された庚申塚遺跡からは、数十頭もの馬の骨や、寛永通宝、土製人形、キセル、かわらけ、灰釉皿等が出土している。

今回、報告を行う社裏北遺跡は、自然堤防上に立地するが三ヶ尻天王遺跡や市内の玉井に所在する五反畠遺跡（昭和63年度調査実施）と同じような中世墓地群で、土葬墓が數十基あって2~3基が複合しあい、若干の火葬墓を伴うものであり、立地が異なり、地域も離れていても同じような墓地群が検出されて興味深い。

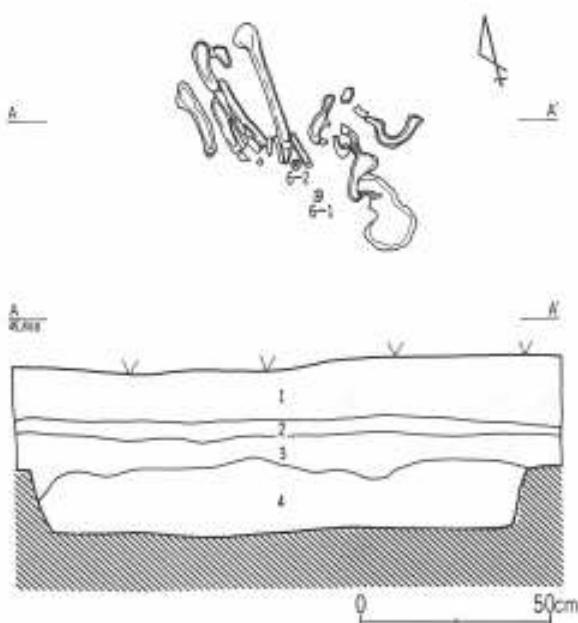


第2図 遺跡位置図

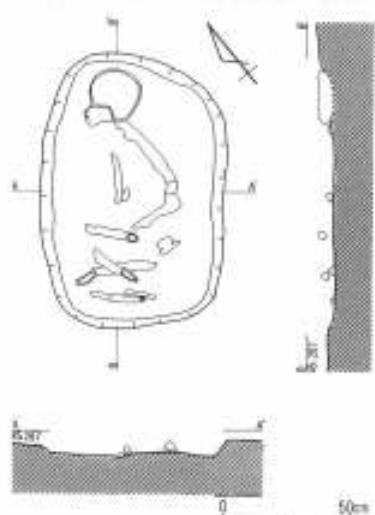
V. 社裏遺跡



第3図 A区全測図



第4図 1号土葬墓



第5図 2号土葬墓

1. 遺跡の概観

社裏遺跡は、J R高崎線龍原駅から南南西へ約2.8 km、荒川から北へ約1.2 kmの所にある。荒川左岸の自然堤防上に立地し、標高は45~46mを測る。

本遺跡は、式内社と伝えられる田中神社の南側に広がっており、今回の調査により3ヵ所が発掘された。

A区は、田中神社の南に位置し、土葬墓2基・土塙3基・溝1基が検出された。基準点の座標は、No.1—X=+16315.0m, Y=-45745.0m, No.2—X=+1630.0m, Y=-45745.0mである。

B区は、A区の西に位置し、集石遺構が1基検出された。基準点の座標は、No.3—X=+16320.0m, Y=-45775.0m, No.4—X=+16310.0m, Y=-45775.0mである。

C区は、A区の南東に位置し、集石遺構が3基検出された。基準点の座標は、No.5—X=+16275.0m, Y=-45665.0m, No.6—X=+16255.0m, Y=-45665.0mである。

2. 遺構と遺物

(1) A区

1号土葬墓(第4・6図、図版2・8)

位 置 本遺構は、A区の北西部に位置し、墓壙は概要 明確に検出されなかった。人骨は頭位を南西に向け、脚を曲げた状態で出土した。土層は1層が耕作土(青灰色土)、2層が黄褐色土(酸化鉄を多く含む)、3層が灰褐色土(酸化鉄を含む)、4層が暗灰褐色土であった。

規 模 墓壙は、断面上から観察され、A-A'断面の長さが1.3m、深さは18cmを測る。

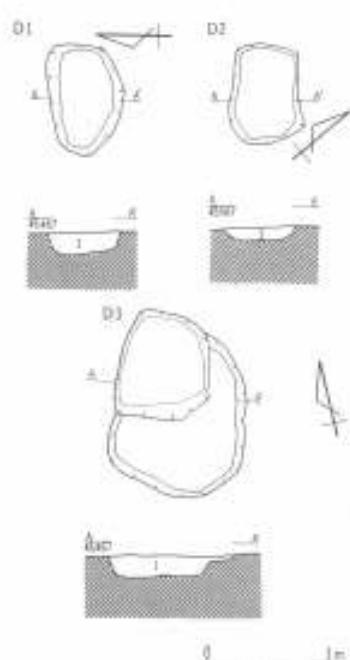
遺 物 古銭が2点出土しており、体の西侧に置かれていたと思われる。



第6図 1号土葬墓出土遺物

6-1 古銭。祥符元宝(真書体)であり、頭の西側で、標高45.291mから出土した。直径2.4cmを測り、銅銭である。

6-2 古銭。元豐通宝(真書体)であり、祥符元宝の北西で、標高45.28mから出土した。直径2.4cmを測り、銅銭である。



第7図 1~3号土塚

2号土葬墓 (第5図、図版2)

位 置 本遺構は、A区の西端に検出され、1号土

概 要 墓の南西約7.5mの所に位置していた。

墓壇は隅が丸い長方形を呈しているが、南東辺は、北東辺より短くなっていた。

人骨は、頭位を北に向け、脚を強く折り曲げて埋葬されていたようである。

覆土は、暗灰褐色土が堆積していた。

規 模 A-A'断面の長さは0.75m、B-B'断面の長さは1.1m、確認面からの深さは6cmを測る。

遺 物 人骨が出土したのみで、古銭・かわらけ等は検出されなかった。

1号土塚 (第7図)

位 置 本遺構は、A区の東端に検出され、1号土

概 要 墓の南東約20mの所に位置していた。

平面形は不整格円形(北西隅が角ぼってい)る)を呈し、底面は北側が若干低くなっていた。覆土は、暗灰褐色土が堆積していた。

規 模 南北方向の径59cm、東西方向の径88cm、確認面からの深さ18cmを測る。

遺 物 検出されなかった。

2号土塚 (第7図)

位 置 本遺構は、A区の東側に検出され、1号土

概 要 墓の西側約2.5mの所に位置していた。

平面形は長方形を呈しているが、南東辺は北西辺より長く、下膨らみのようになっていた。覆土は、暗灰褐色土が堆積していた。

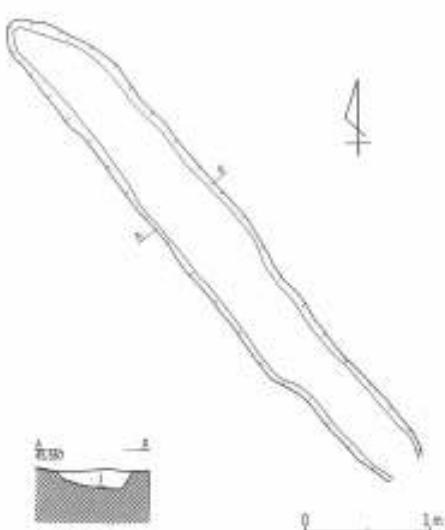
規 模 長軸の長さ80cm、短軸の長さ58cm、確認面からの深さ18cmを測る。

遺 物 検出されなかった。

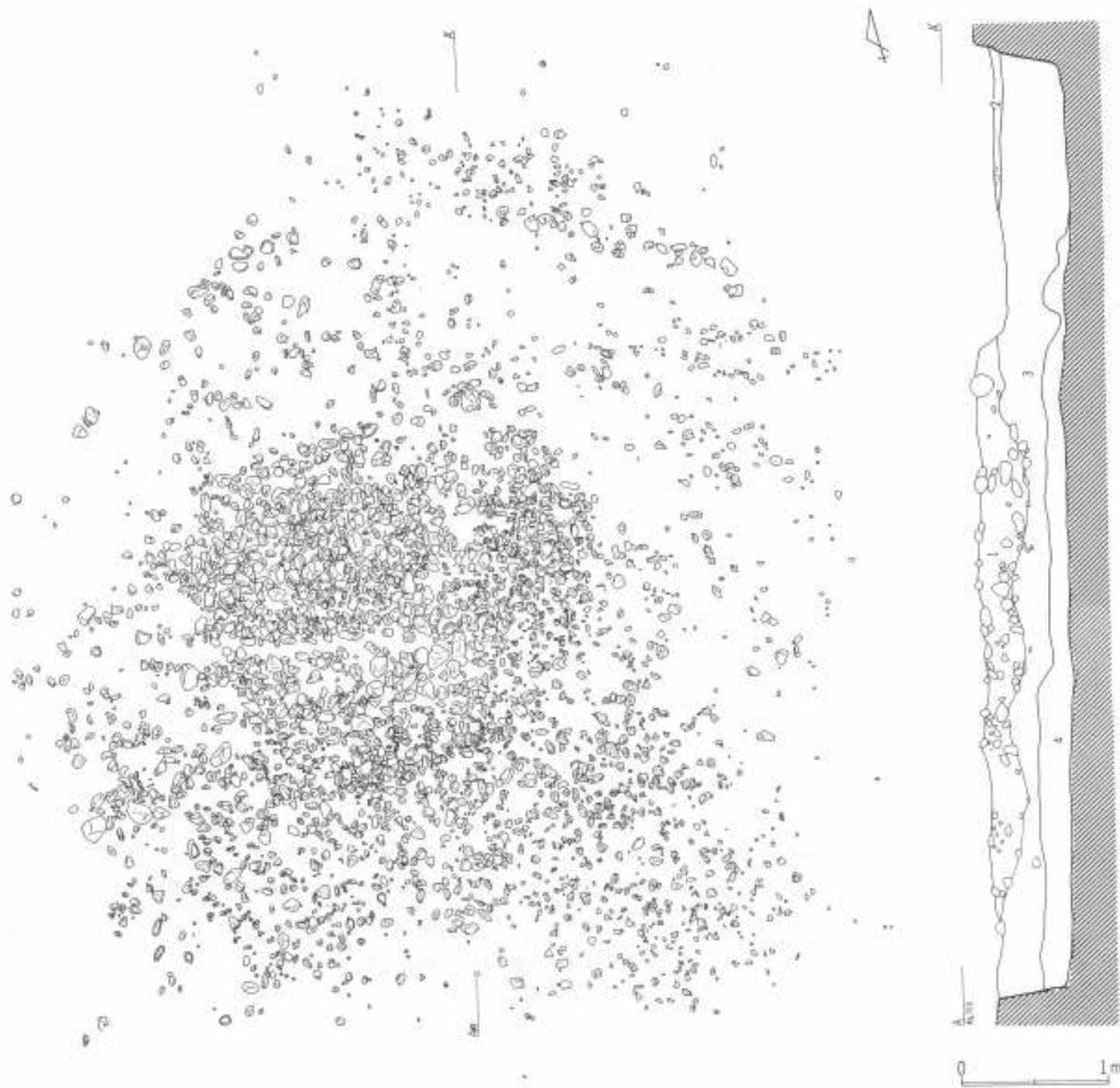
3号土塚 (第7図)

位 置 本遺構は、1・2号土塚とともに、A区の

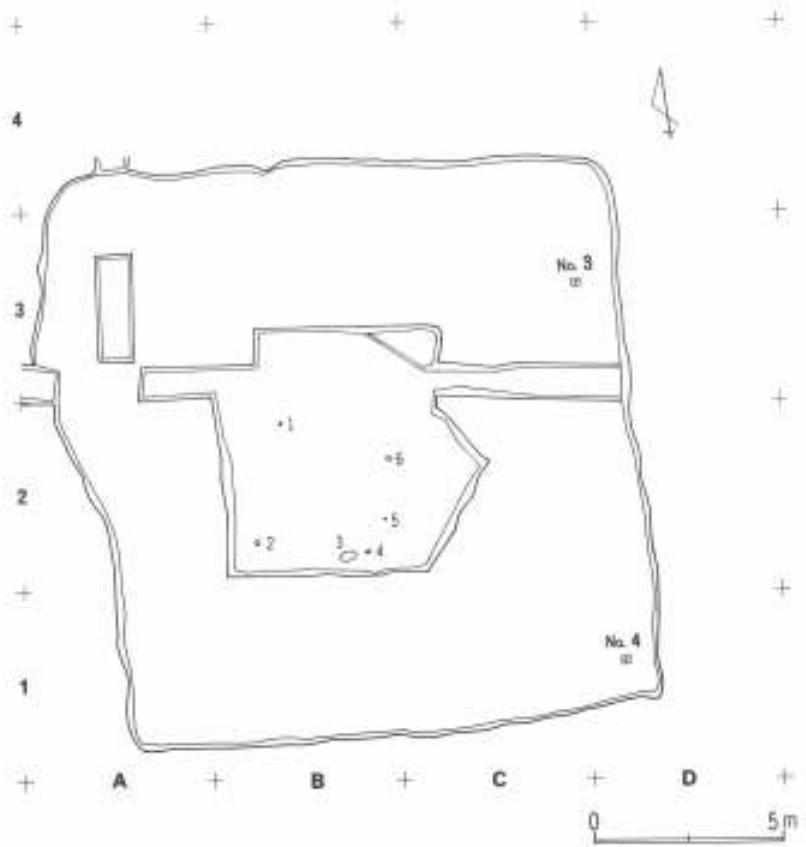
概 要 東側に検出され、1号土塚の南側約4.5mの



第8図 1号溝



第9図 B区1号集石遺構



第10図 B区全洞図

所に位置していた。

平面形は隅が丸い台形を呈しているが、北側に同じ形の掘り込みを有し、覆土は暗灰褐色土が堆積していた。

規 模 土壙の外側部の大きさは、南北方向の長さ1.46m、B-B'断面の長さ98cm、確認面からの深さ4cmを測る浅いものである。

北側の掘り込みの大きさは、南北方向の長さ86cm、B-B'断面の長さ80cm、確認面からの深さ10cmを測る。

遺 物 検出されなかった。

1号溝 (第7図)

位 置 本遺構は、A区の南端に検出され、3号土

概 要 墓の西側約2.5mの所に北西から南東方向に

走る状態で出土した。底面は東側が深くなっていた。北西側は浅くなっていて検出できず、南東側は調査区域外であり確認できなかった。

覆土は暗灰褐色土が堆積していた。

規 模 断面A-A'上の上幅58cm、底部幅44cm、確認面からの深さ16cmを測る。

遺 物 検出されなかった。

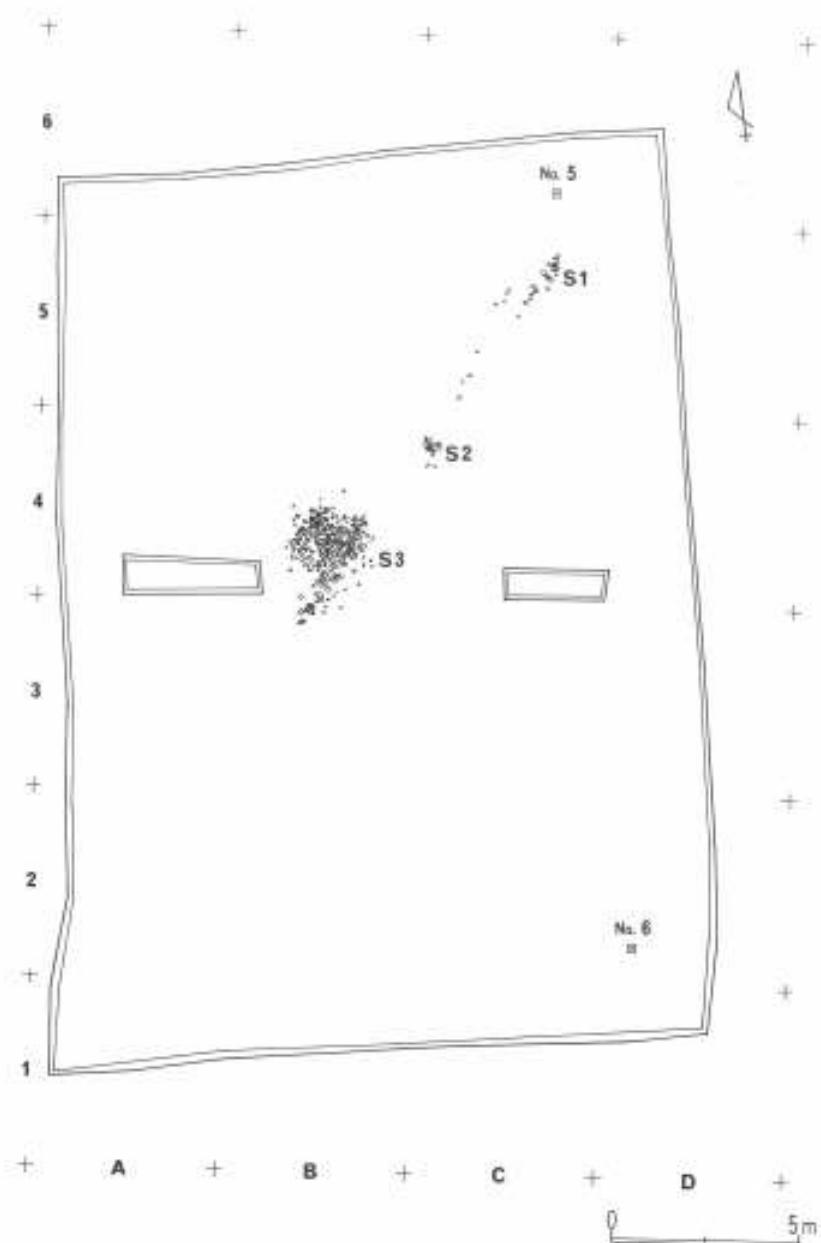
(2)B区

1号集石遺構 (第9・10図、図版3)

位 置 本遺構は、田中神社の西側約25mの所に検

出された。

平面形は五角形を呈すると思われ、中心部



第11図 C区全測図

は密に川原石が集められ、これも五角形に近い形を呈していた。

土層は、1層が暗灰褐色土（礫を多く含む）、2層が灰褐色土（酸化鉄を含む）、3層が暗灰褐色土（酸化鉄を多く含む）、4層が暗褐色砂質土（砂礫を含む）であった。

規 模 外側の大きさは、南北方向の長さ6.54m、東西方向の長さ5.90m、中心部の集石の大きさは南北方向の長さ2.40m、東西方向の長さ2.90m

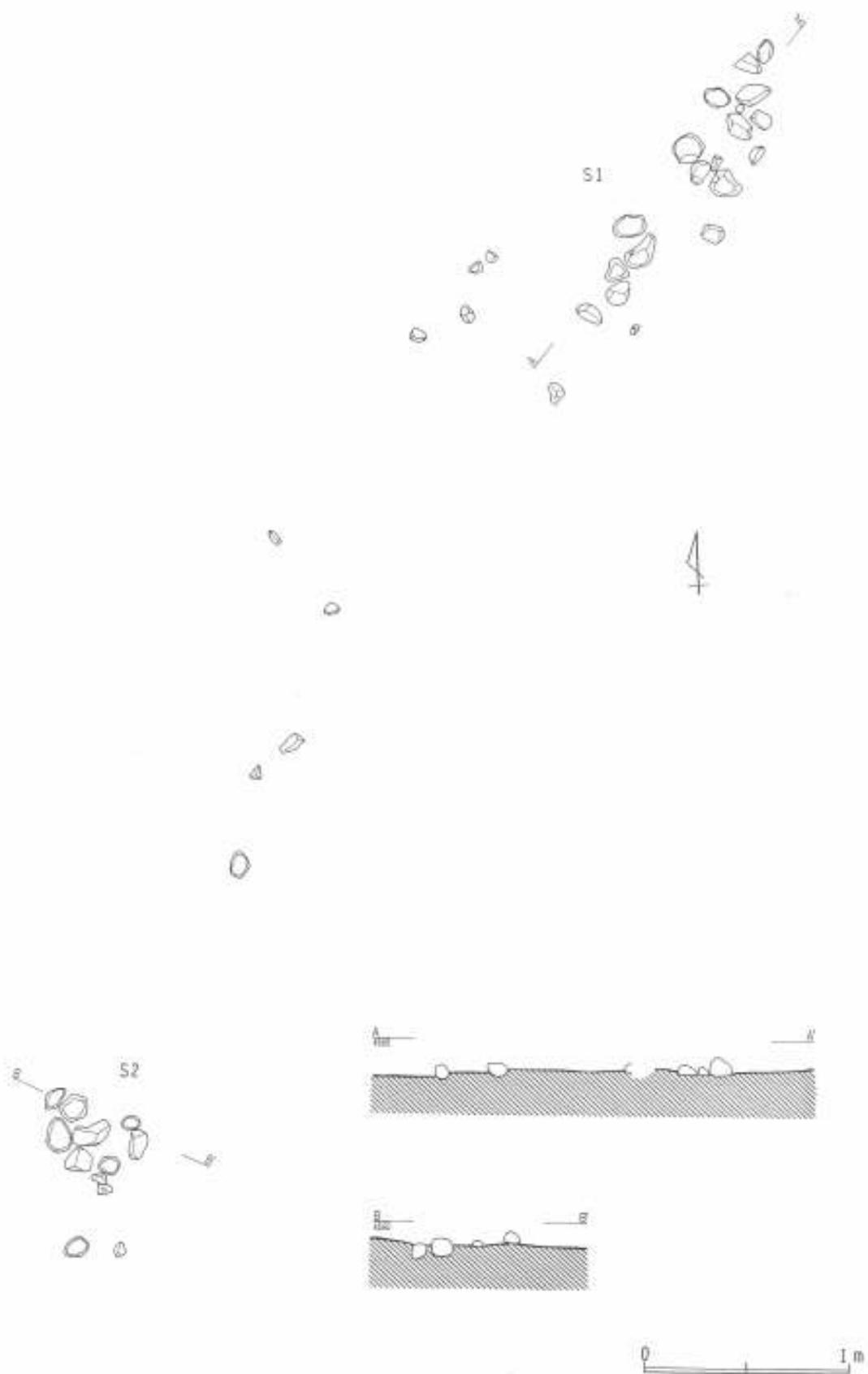
を測り、深さは60cmで、礫を多く含む1層の深さは32cmであった。

遺 物 馬の歯、骨片等が出土した。馬の歯、骨片については、第12章で記す。

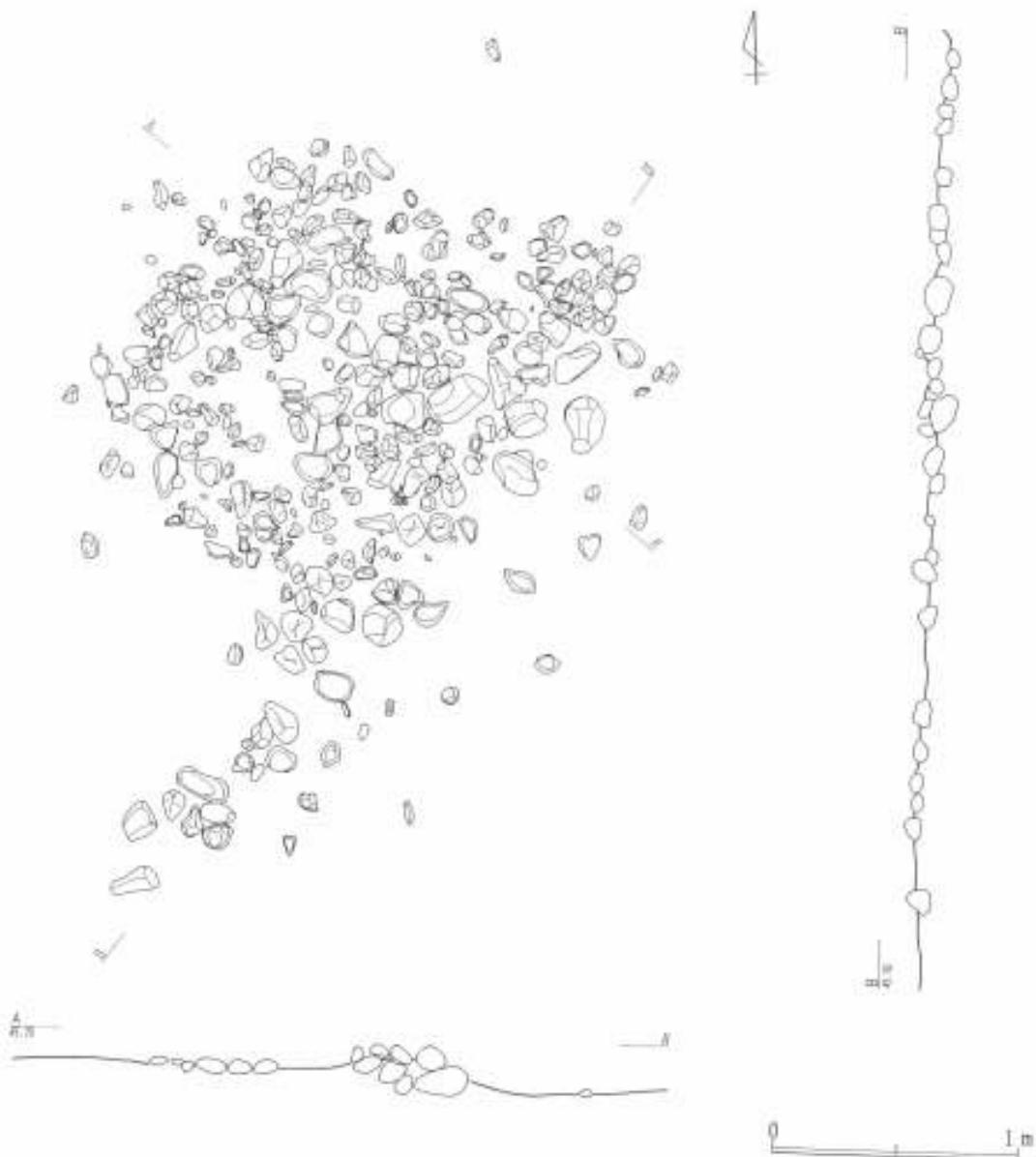
(3) C区

1号集石遺構（第12図）

位 置 本遺構は、田中神社の南西約80mの所に検出



第12图 C区1~2号集石遗構



第13図 C区3号集石遺構

概要 され、C区の北西端に位置していた。

遺物 検出されなかった。

北東から南西の方向に細長く川原石が置か

れていた。

3号集石遺構 (第13図・図版3)

規模 長軸の長さ2.06m、短軸の長さ40cmを測る。位
置 本遺構は、2号集石の南西約2.3mの所に

概要 検出され、北側は台形、南側は細長く川原石
が置かれており、ひしゃくのような形を呈し

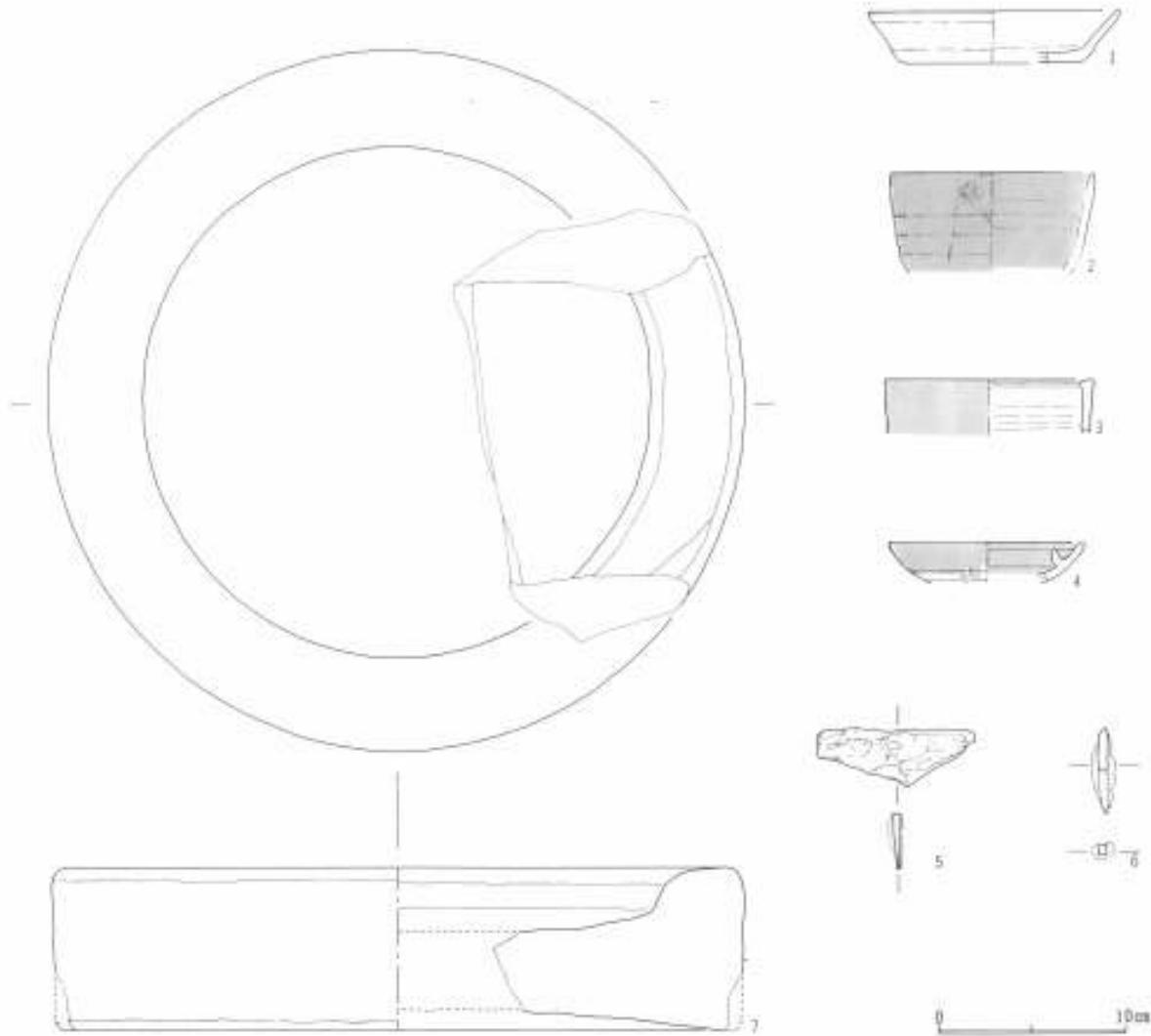
2号集石遺構 (第12図)

ていた。

位置 本遺構は、1号集石遺構の南西約4mの所
概要 に検出され、川原石が半円状に置かれていた。

る。

規模 長軸の長さ55cm、短軸の長さ約35cmを測る。遺物 検出されなかった。



第14図 社裏遺跡出土遺物

社裏遺跡出土遺物（第14図）

14—1 壱（須恵器）。口径12.8cm、底径9cm、
器高2.6cm。中粒砂を含み、焼成は良好で、
色調は暗淡褐色である。底部は回転糸切りで、
残存率は $\frac{1}{2}$ である。

14—2 茶碗。口径10.7cm、残存高5.2cm。地の
色調は白色で、釉は灰釉である。残存率は $\frac{1}{2}$
である。

14—3 香炉。A区D—4グリッドで標高45.264
mから出土。口径11cm、残存高2.8cm。地の
色調は灰白色で、釉は灰釉である。残存率は
口縁の $\frac{1}{2}$ である。

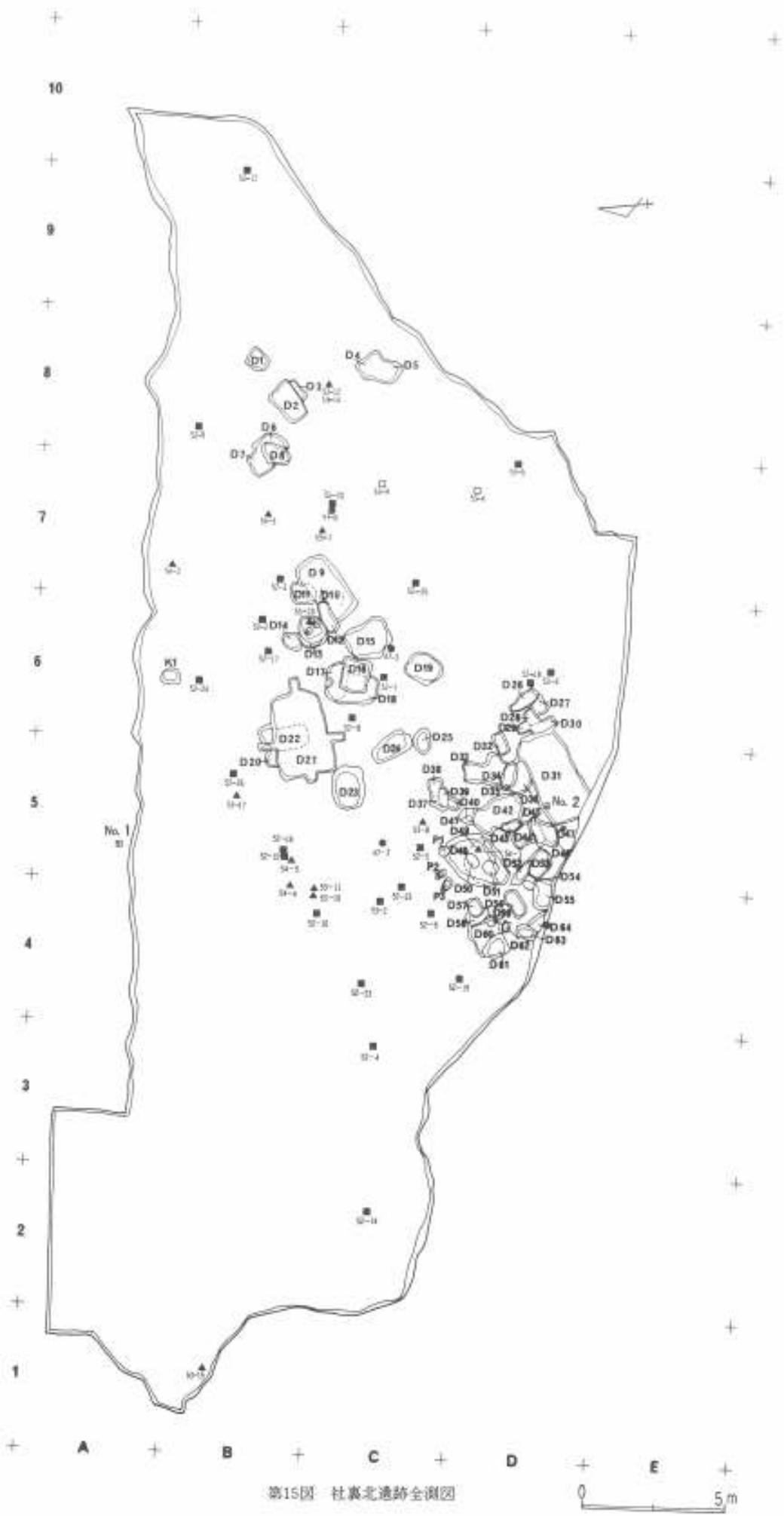
14—4 灯明皿。口径10.4cm、残存高2.2cm。地

の色調は灰白色で、釉は鐵釉である。残存率
は $\frac{1}{2}$ である。

14—5 鉄器。長さ8.1cm、幅2.9cm、上部の厚
さ0.3cm。上部は長方形、下部は三角形を呈
し、下端は薄く、尖っている。

14—6 鉄器（釘）。残存長4.4cm、厚さ0.5cm。
断面形は方形を呈す。

14—7 石臼。A区B—7グリッドで標高45.657
mから出土。直徑36.4cm、厚さ8.6cm。石材
は安山岩である。上臼で、残存率は $\frac{1}{2}$ である。



V. 社裏北遺跡

1. 遺跡の概観

社裏北遺跡は、社裏遺跡の北約87mの所に位置し、荒川左岸の自然堤防上に立地して、標高45~46mを測る。

今回の調査によって、中世の土壙64基、火葬墓1基、ピット3基が検出され、9号土葬墓から58枚の古銭、

45号土葬墓から37枚の古銭が出土するなど、古銭が数多く発見された。

本遺跡の基準点の座標は、No.1—X=+16430.0m, Y=-45780.0m, No.2—X=+16415.0m, Y=-45780.0mである。

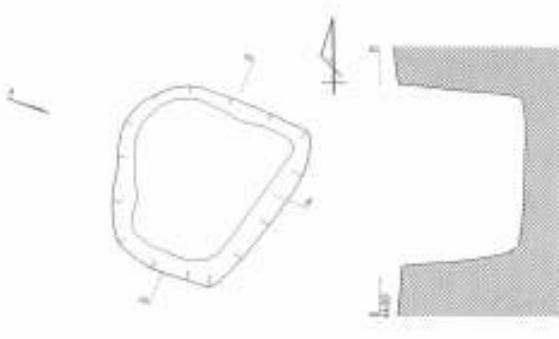
2. 遺構と遺物

1号土壙（第16図）

位 置 本遺構は、調査区の北東部に位置し、平面概要 形は台形を呈していた。掘り方は、ほぼ垂直に掘られ、覆土は1層が灰褐色土、2層が暗灰褐色土であった。

規 模 A-A'断面の長さ70cm、B-B'断面の長さ72cm、稼認面からの深さ50cmを測る。

遺 物 検出されなかった。



第16図 1号土壙

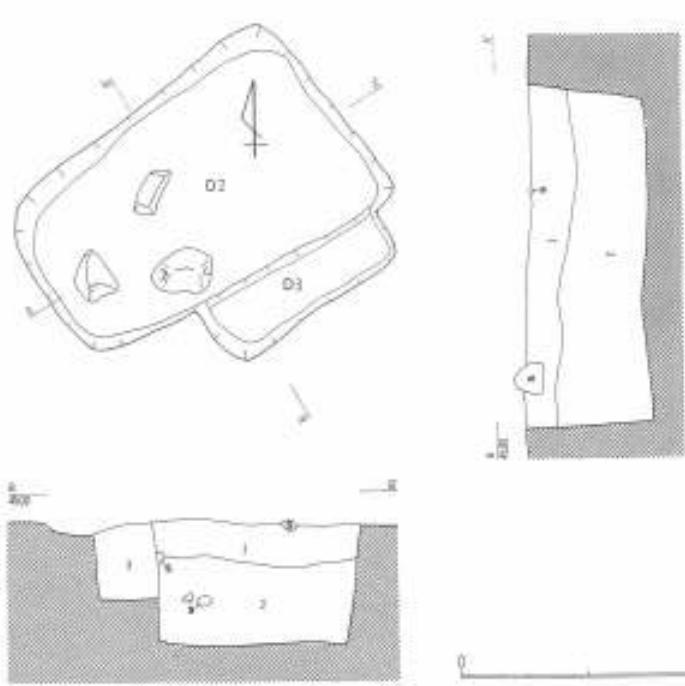
2号土壙（第17図）

位 置 本遺構は、1号土壙の南東に位置し、3号概要 土壙と複合していた。平面形は長方形を呈し、覆土上部には川原石が置かれていた。覆土は

1・2層とも灰褐色土であった。

規 模 A-A'断面の長さ1.36m、B-B'断面の長さ83cm、深さ50cmを測る。

遺 物 検出されなかった。



第17図 2・3号土壙

3号土壙（第17図）

位 置 本遺構は、2号土壙に概要 よって切られており、平面形が長方形か方形か明確でない。覆土は、灰白色土であった。

規 模 南東辺の長さ約73cm、深さ30cmを測る。

遺 物 検出されなかった。

4号土壌(第18図)

位 置 本遺構は、C-8グ

リッドで検出され、5
号土壌と複合していた。

平面形は長方形で、
覆土は1層が暗褐色土、
2層が灰褐色土であっ
た。

規 模 北東辺の長さ87cm、
北西辺の長さ56cm、深
さ27cmを測る。

遺 物 検出されなかった。



第18図 4・5号土壌

5号土壌(第18・19図、図版5)

位 置 本遺構は、4号土壌

概 要 を切っており、平面形
は方形を呈すると思わ
れる。覆土は3層が暗
灰褐色土、4層が暗褐
色土であった。

規 模 南西辺の長さ73cm、
深さ37cmを測る。

遺 物 川原石が覆土上部に置かれ、南東側に内耳
土器が出土した。

19-1 内耳土器。口径17.4cm、残存高10.7cm。
中粒砂と少しの細礫を含み、焼成は良好で、
色調は黒灰褐色である。残存率は半である。

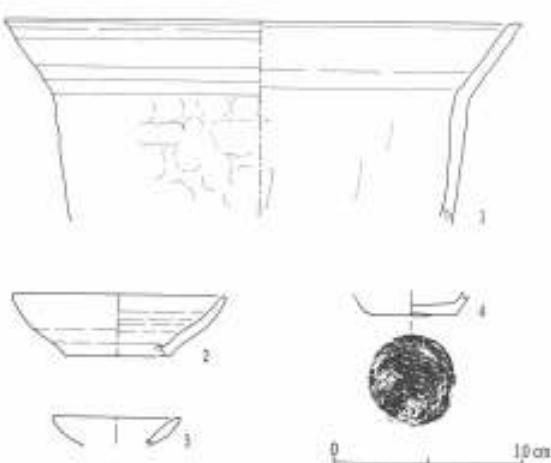
6号土壌(第20図)

位 置 本遺構は、B-8グリッドに検出され、7・

概 要 8号土壌により切られていた。平面形は長方
形を呈すると考えられ、覆土は2層が灰褐色
土、4層が暗灰褐色土であった。

規 模 南東辺の長さ70cm、北東辺の長さ85cm、深
さ44cmを測る。

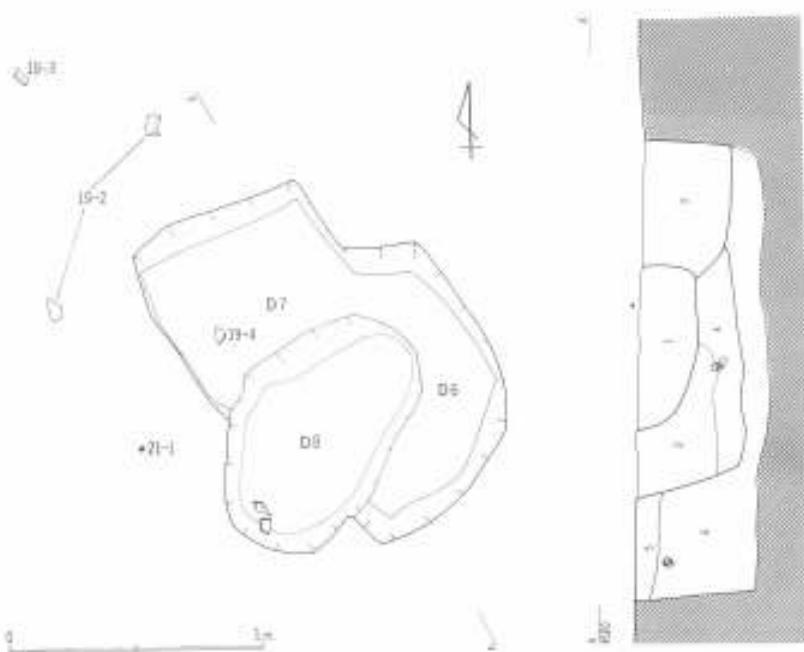
遺 物 検出されなかった。



第19図 5・7号土壌及び6・8号土壌付近出土遺物

7号土壤(第19・20図)

*21-2



第20図 6・7・8号土壤

8号土壤(第20図)

位 置 本遺構は、B-7・8グリッドから出土し、
概 要 6・7号土壤を切っていた。平面形は不整梢
円形を呈し、覆土は暗褐色土が堆積していた。
20図の5層は灰褐色砂質土、6層は砂層であ
った。

規 模 長軸の長さ1m、短軸の長さ65cm、深さ23
cmを測る。

遺 物 かわらけが出土した。

6～8号土壤付近の出土遺物(第19・21図)

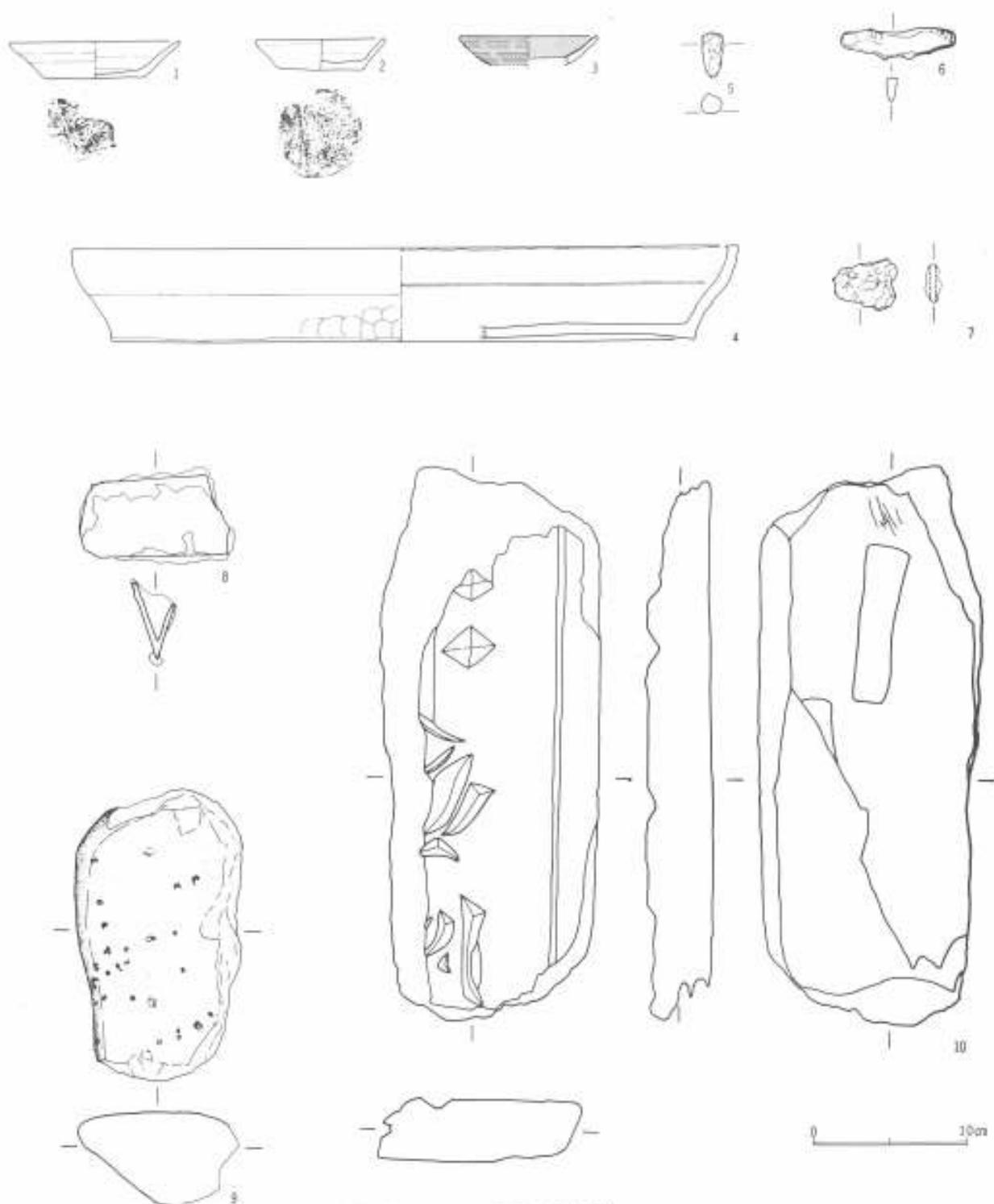
19-2 かわらけ。口径11.4cm、底径5.6cm、器
高3.3cm。中粒砂を含み、焼成は良好で、色
調は淡褐色である。残存率は半である。

19-3 かわらけ。口径6.8cm、残存高1.6cm。
中粒砂を少し含み、色調は淡褐色で、残存率
は半である。

21-1 古銭。治平元宝(篆書体)。直徑2.3cm
で、銅銭である。



第21図 6～8号土壤付近出土古銭

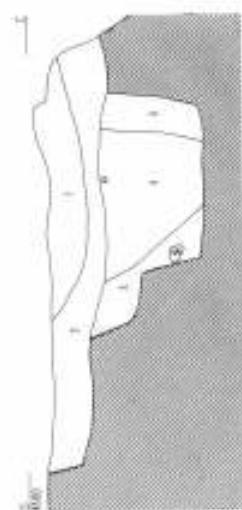
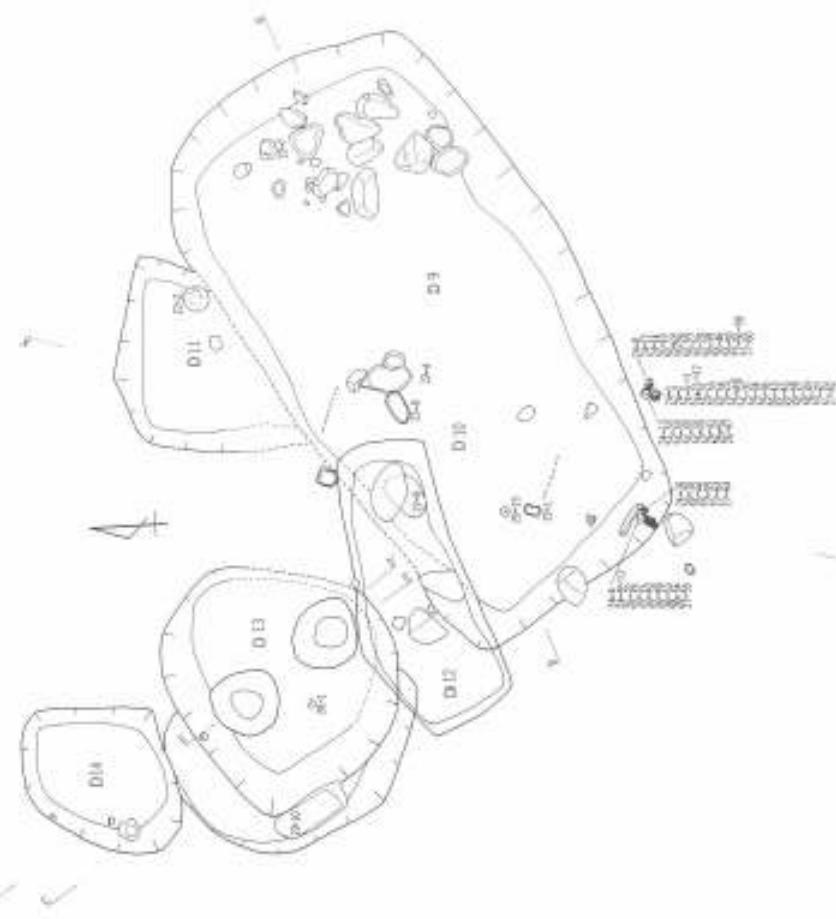
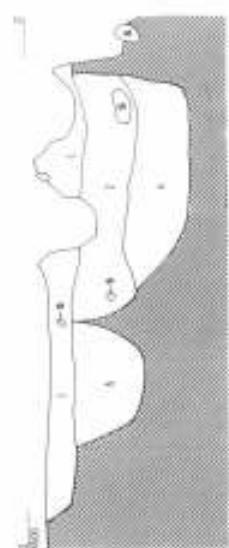
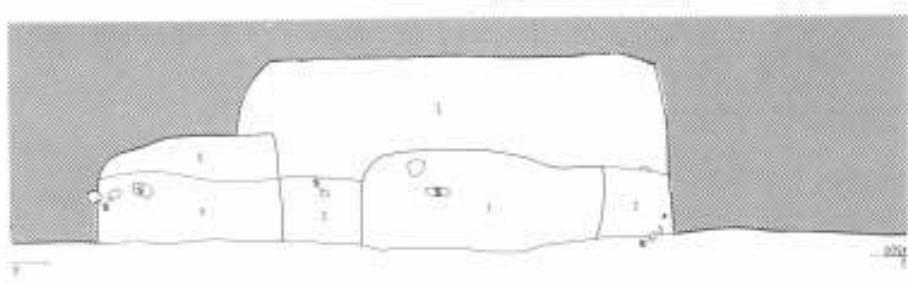
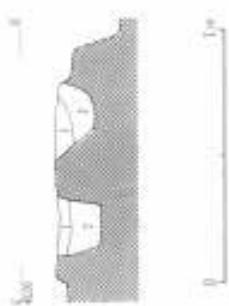


第22図 9・11・13号土壤出土遺物

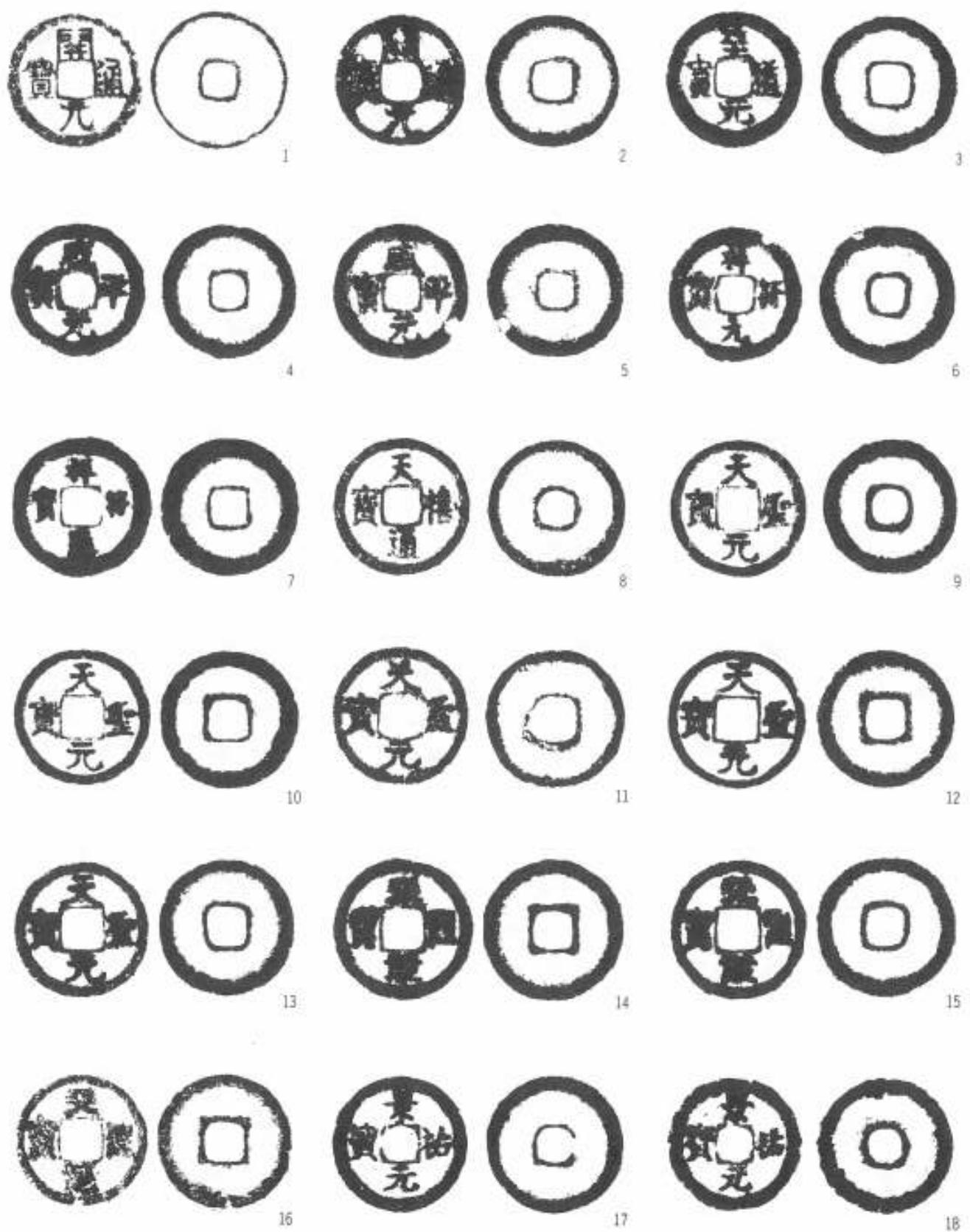
21—2 古銭。元祐通宝（篆書体）。直径 2.4 cm
で、銅銭である。

出された。平面形は長方形で、覆土は2層が暗褐色土、3層が2層より暗い暗褐色土であった。

9号土壤（第22～27図、図版5・8・9）
位 置 本遺構は、調査区のほぼ中央にあり、B—
概 要 6・7、C—6・7グリッドにまたがって検 遺 物 規 模 B—B'断面の長さ 2.7 m、南西辺の長さ 98 cm、深さ 77 cm を測る。
かわらけ・陶器・内耳土器・鉄器等が出土。

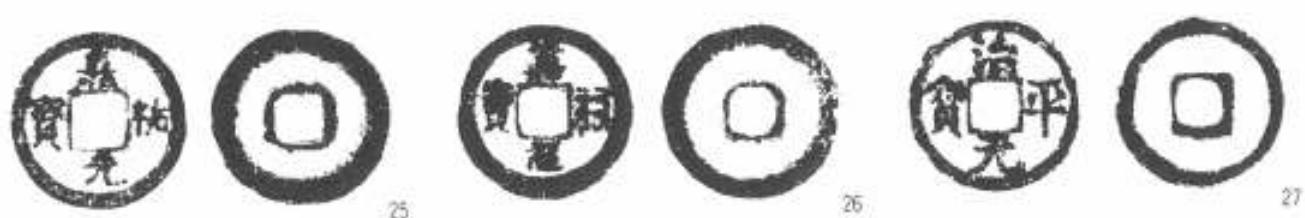
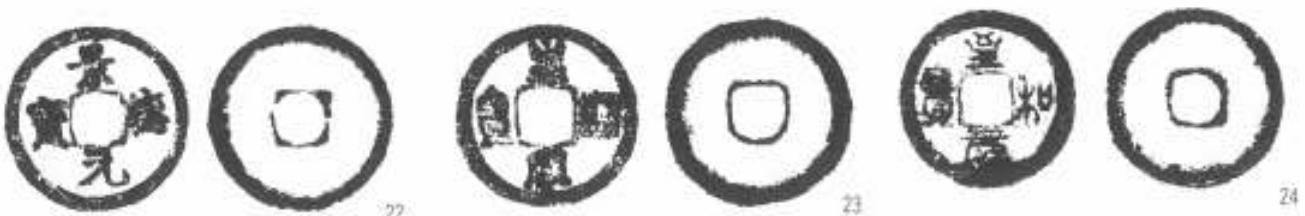


第23圖 9~14号土壤



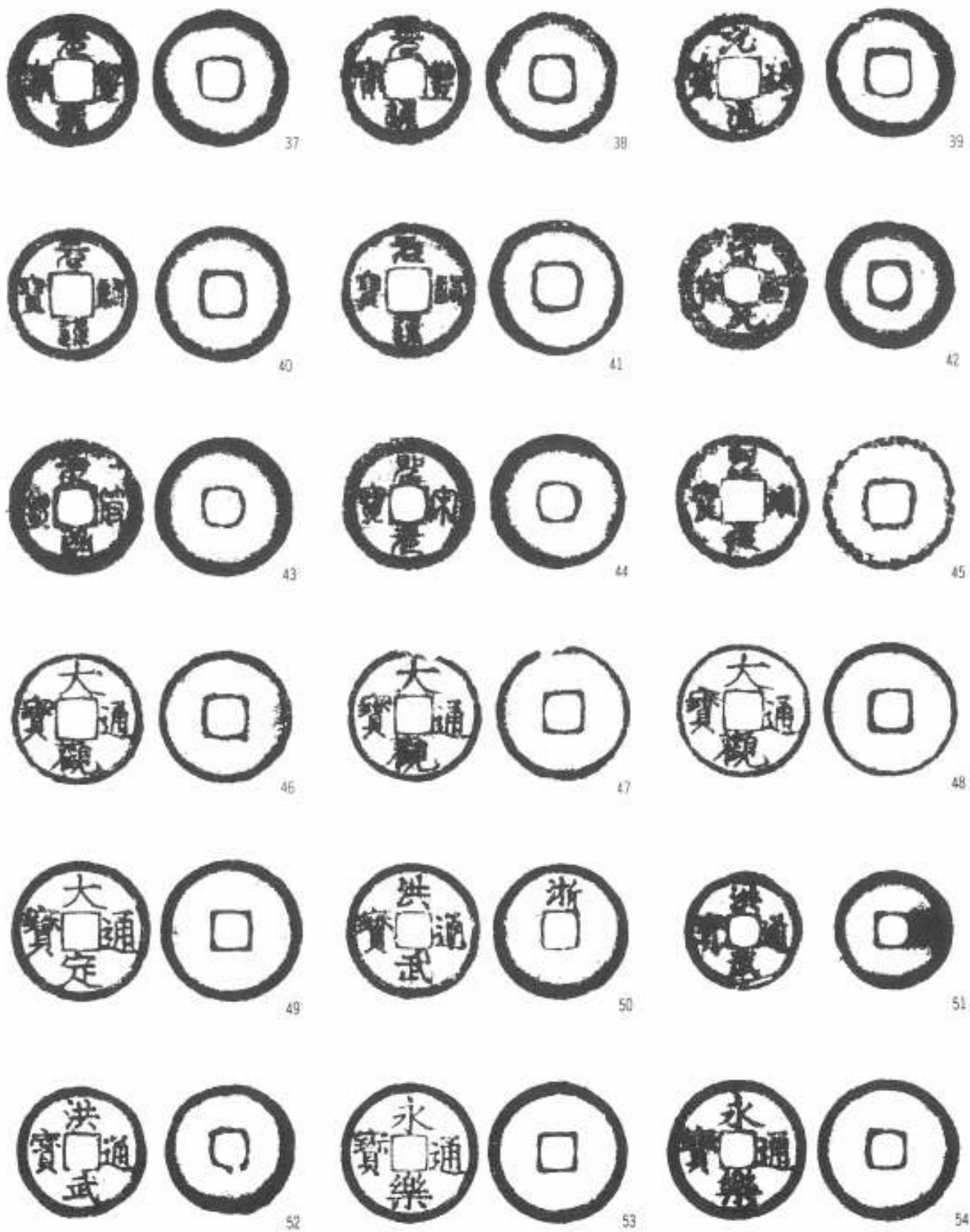
0 2 cm

第24圖 9号土壤出土古錢(1)



0 2 cm

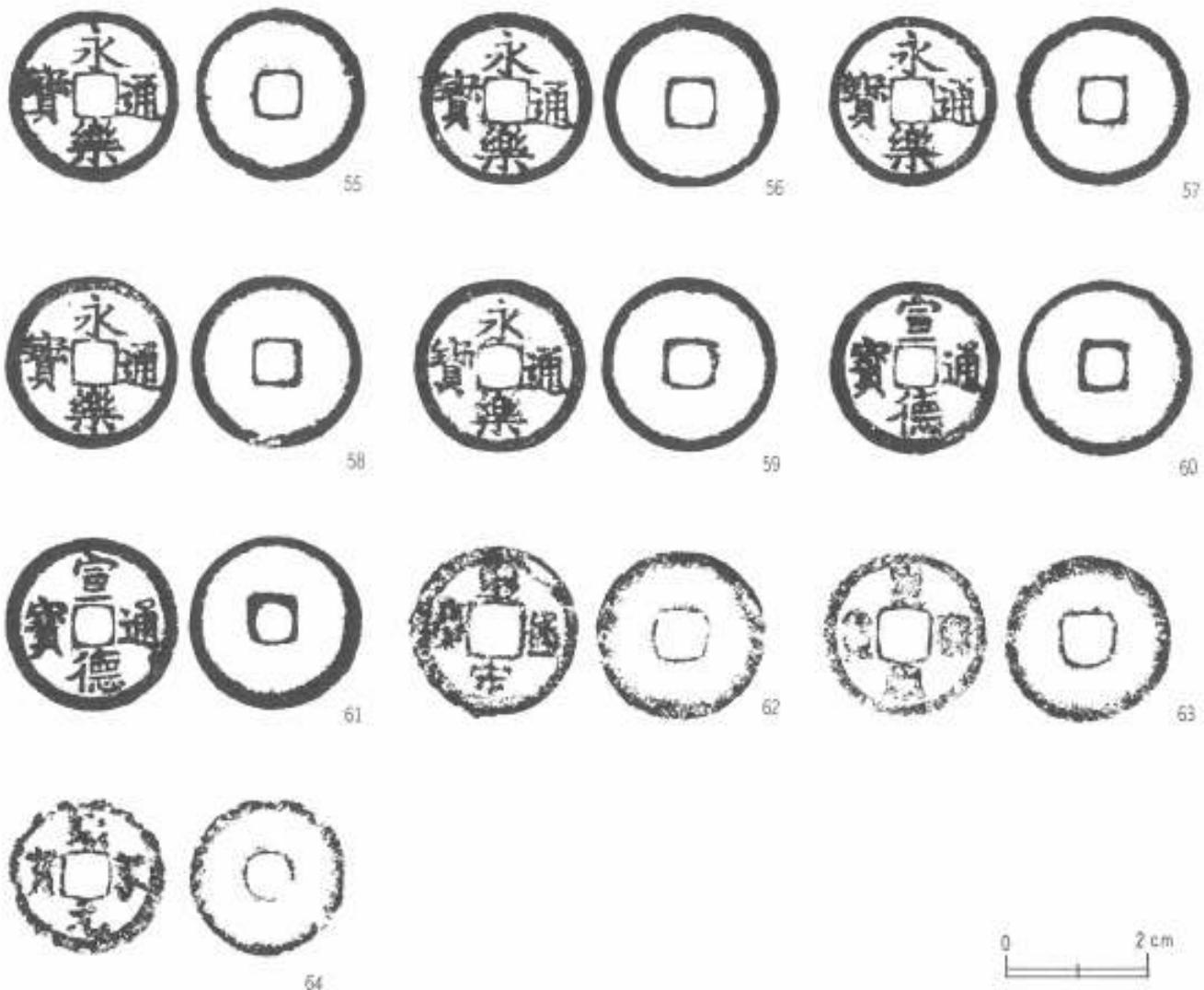
第25図 9号土壤出土古銭(2)



0 2 cm

第26圖 9号土壤出土古錢(3)

- 22-1 かわらけ。口径11cm、底径6.4cm、器高2.3cm。中粒砂含み、淡褐色で、底部は回転糸切り。残存率は半。
- 22-3 小皿。口径8.8cm、残存高1.8cm。地の色は淡黄褐色、釉は灰釉。残存率は口縁部の半。
- 22-4 内耳土器。口径42cm、底径36.8cm、器高5.9cm。中粒砂含み、外面は暗灰褐色、内面は暗灰白色、底面は灰白色。残存率は半。
- 22-5 鉄器(釘)。残存長2.8cm。断面形は方形。
- 22-6 鉄器。長さ7cm、最大幅1.7cm、厚さ4mm。
- 22-7 鉄器。残存長3.3cm、最大幅2.8cm、厚さ3.5mm。
- 22-8 鉄器。残存長9.1cm、最大幅5.1cm。断面形は、Vの字形を呈す。
- 22-9 焼石。長さ18.4cm、最大幅10.4cm、最大厚6cm。表と裏の面は磨れている。
- 24-1 古銭。開元通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-2 古銭。開元通宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 24-3 古銭。至道元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-4 古銭。咸平元宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 24-5 古銭。咸平元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-6 古銭。祥符元宝(真書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 24-7 古銭。祥符元宝(真書体)。直径2.6cm。銅銭。
- 24-8 古銭。天禧通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-9 古銭。天聖元宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 24-10 古銭。天聖元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-11 古銭。天聖元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-12 古銭。天聖元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-13 古銭。天聖元宝(真書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 24-14 古銭。天聖元宝(篆書体)。直径2.6cm。銅銭。
- 24-15 古銭。天聖元宝(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-16 古銭。天聖元宝(篆書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 24-17 古銭。景祐元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 24-18 古銭。景祐元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 25-19 古銭。皇宋通宝(篆書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 25-20 古銭。皇宋通宝(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 25-21 古銭。皇宋通宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-22 古銭。景德元宝。直径2.5cm。銅銭。
- 25-23 古銭。至和元宝(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 25-24 古銭。至和元宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-25 古銭。嘉祐元宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-26 古銭。嘉祐元宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-27 古銭。治平元宝(真書体)。直径2.3cm。銅銭。
- 25-28 古銭。治平元宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-29 古銭。熙寧元宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 25-30 古銭。熙寧元宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-31 古銭。熙寧元宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-32 古銭。熙寧元宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-33 古銭。熙寧元宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-34 古銭。熙寧元宝(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 25-35 古銭。元豐通宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 25-36 古銭。元豐通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 26-37 古銭。元豐通宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-38 古銭。元豐通宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-39 古銭。元祐通宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-40 古銭。元祐通宝(篆書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 26-41 古銭。元祐通宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-42 古銭。紹聖元宝(真書体)。直径2.3cm。銅銭。
- 26-43 古銭。元符通宝(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 26-44 古銭。聖宋元宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-45 古銭。聖宋元宝(篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-46 古銭。大觀通宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-47 古銭。大觀通宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-48 古銭。大觀通宝(真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 26-49 古銭。大定通宝(真書体)。直径2.55cm。銅銭。
- 26-50 古銭。洪武通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 26-51 古銭。洪武通宝(真書体)。直径2.15cm。銅銭。
- 26-52 古銭。洪武通宝(真書体)。直径2.3cm。銅銭。
- 26-53 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 26-54 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.55cm。銅銭。
- 27-55 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 27-56 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.55cm。銅銭。
- 27-57 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 27-58 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。



第27図 9号土壙出土古銭(4)

- 27-59 古銭。永樂通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。 11号土壙(第22・23図、図版9)
 27-60 古銭。宣德通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。位 置 本遺構は、9号土壙と複合しており、平面
 27-61 古銭。宣德通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。概 要 形は方形を呈していた。覆土は4層が暗褐色
 27-62 古銭。皇宋通宝(真書体)。直径2.5cm。銅銭。 土、5層が4層より疊い暗褐色土であった。
 27-63 古銭。皇宋通宝(篆書体)。直径2.5cm。銅銭。 規 模 A-A'断面の長さ73cm、北辺の長さ73cm。
 27-64 古銭。熙寧元宝(真書体)。直径2.3cm。銅銭。 深さ42cmを測る。

遺 物 かわらけが出土した。

10号土壙(第23図)

位 置 本遺構は、9号土壙と複合しており、A-A'断面上で検出された。平面形は不明であり、
 概 要 覆土は暗灰褐色土であった。

規 模 A-A'断面の長さ92cm、深さ39cmを測る。

遺 物 第22図の4・8は本遺構出土の可能性がある。

22-2 かわらけ。口径8.2cm、底径5.6cm、器高2cm。中粒砂を含み、淡褐色で、残存率は%。

12号土壙(第23図)

位 置 本遺構は、9・10・13号土壙と複合してお
 概 要 り、平面形は長方形を呈していた。

規 模 東辺の長さ35cm、南辺の長さ1.02m、深さ21cmを測る。

遺 物 かわらけが出土した。

13号土壙（第22・23・28図、図版5）

位 置 本遺構は、12号土壙と複合しており、平面概要 形は不整形を呈し、西側には段が見られた。

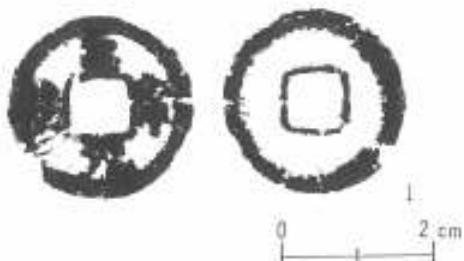
中央部には、ピットが2基あり、ピットには焼土・炭化物を含む褐色土（1層）と暗褐色土が堆積していた。

土壙の土層は、1層が褐色土、2層が暗褐

色土、3層が2層より暗い暗褐色土、4層が炭化物、焼土を含む黒褐色土、5層が炭化物、焼土を含む暗褐色土であった。

規 模 D-D'断面の長さ98cm、深さ45cmを測る。

遺 物 板碑・古錢が出土した。



第28図 13号土壙出土古錢

14号土壙（第23図）

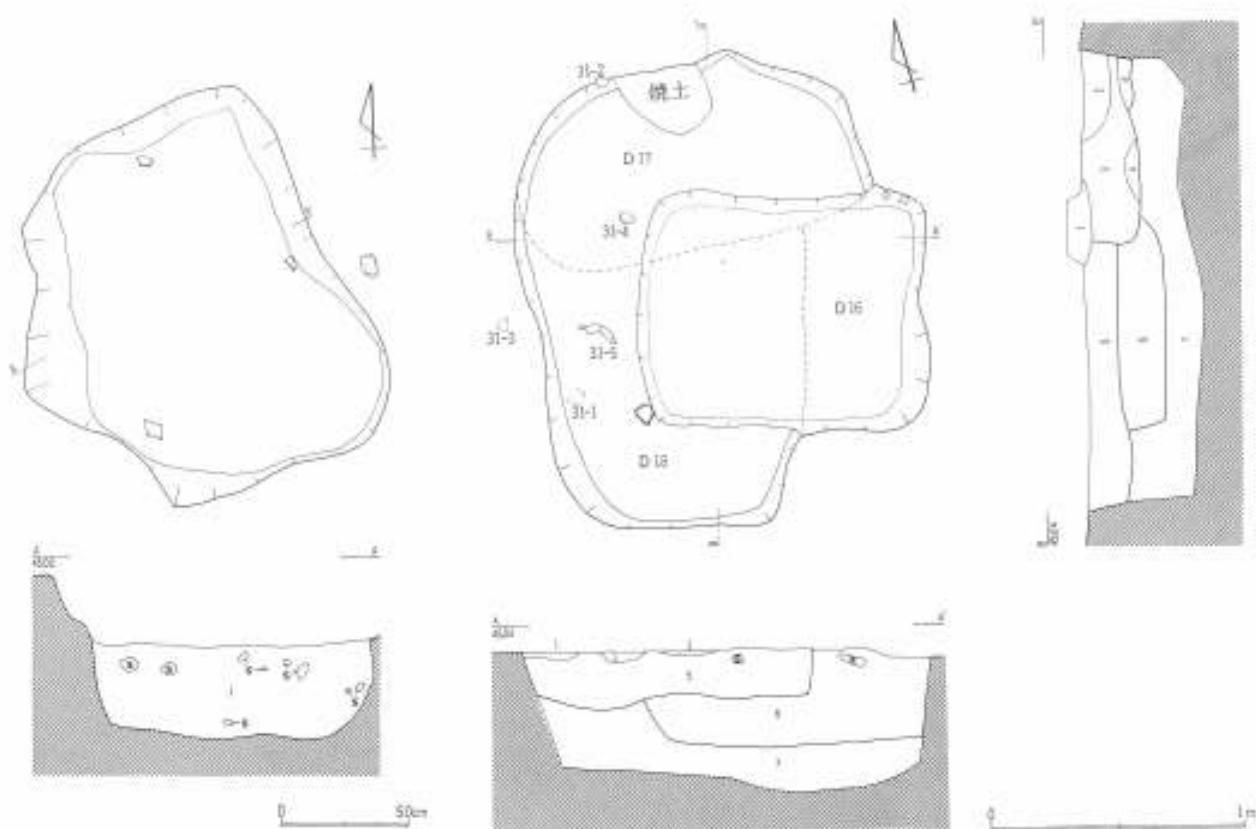
位 置 本遺構は、13号土壙に隣接しており、平面概要 形は台形を呈していた。覆土（6層）は炭化物を含む暗褐色土であった。

規 模 北辺の長さ38cm、南辺の長さ49cm、東辺の長さ46cm、深さ27cmを測る。

遺 物 かわらけが出土した。

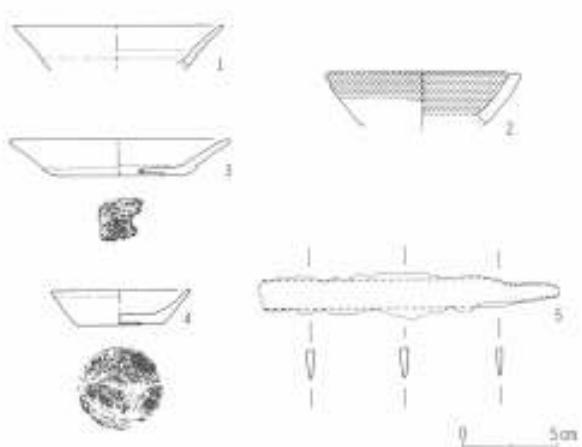
15号土壙（第29図、図版5）

位 置 本遺構は、C-6グリッドで検出され、平



第29図 15号土壙

第30図 16・17・18号土壙



第31図 17・18号土壙出土遺物

概要 面形は長方形を呈すると思われる。覆土は、炭化物・粘土・礫を含む暗褐色土であった。
規模 長軸の長さ1.51m、A-A'断面の長さ1.1m、深さ36cmを測る。
遺物 かわらけが出土した。

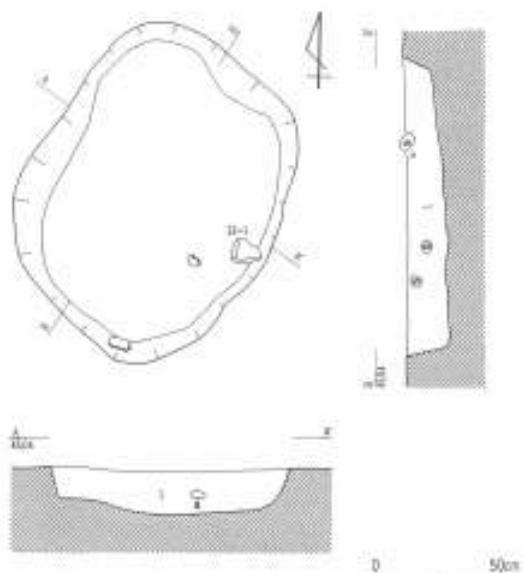
16号土壙 (第30図、図版5)

位置 本遺構は、15号土壙の西側に隣接して検出

概要 され、平面形は長方形を呈していた。17・18号土壙によって切られており、覆土（7層）は暗灰褐色土であった。

規模 長軸の長さ1.16m、短軸の長さ97cm、深さ32cmを測る。

遺物 かわらけが出土した。



第32図 19号土壙

17号土壙 (第30・31図、図版5・9)

位置 本遺構は、16・18号土壙の北側に検出され、

概要 平面形は長方形を呈すると思われるが不明瞭である。土層は、1層が暗褐色土、2層が暗褐色砂質土、3層が灰褐色砂質土、4層が灰白色砂質土であった。

規模 B-B'断面の長さ76cm、深さ23cmを測る。

遺物 かわらけが出土している。

31-2 かわらけ。口径10.2cm、残存高2.8cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈し口唇部は黒い。残存率は口縁の半分である。

31-4 かわらけ。口径7.2cm、底径4.4cm、高さ1.8cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。

18号土壙 (第30・31図、図版5・9)

位置 本遺構は、16号土壙を切り、17

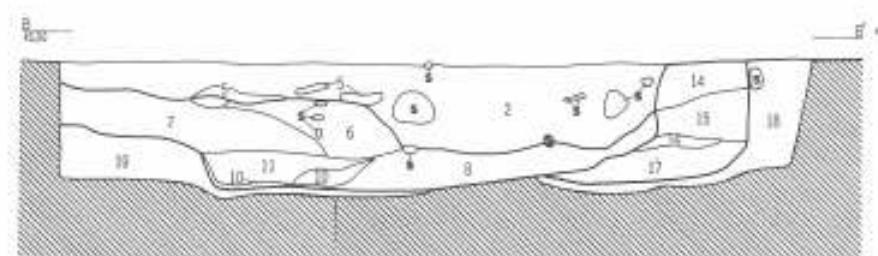
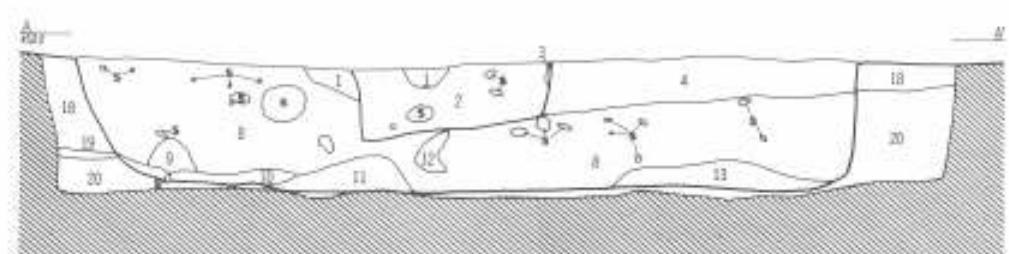
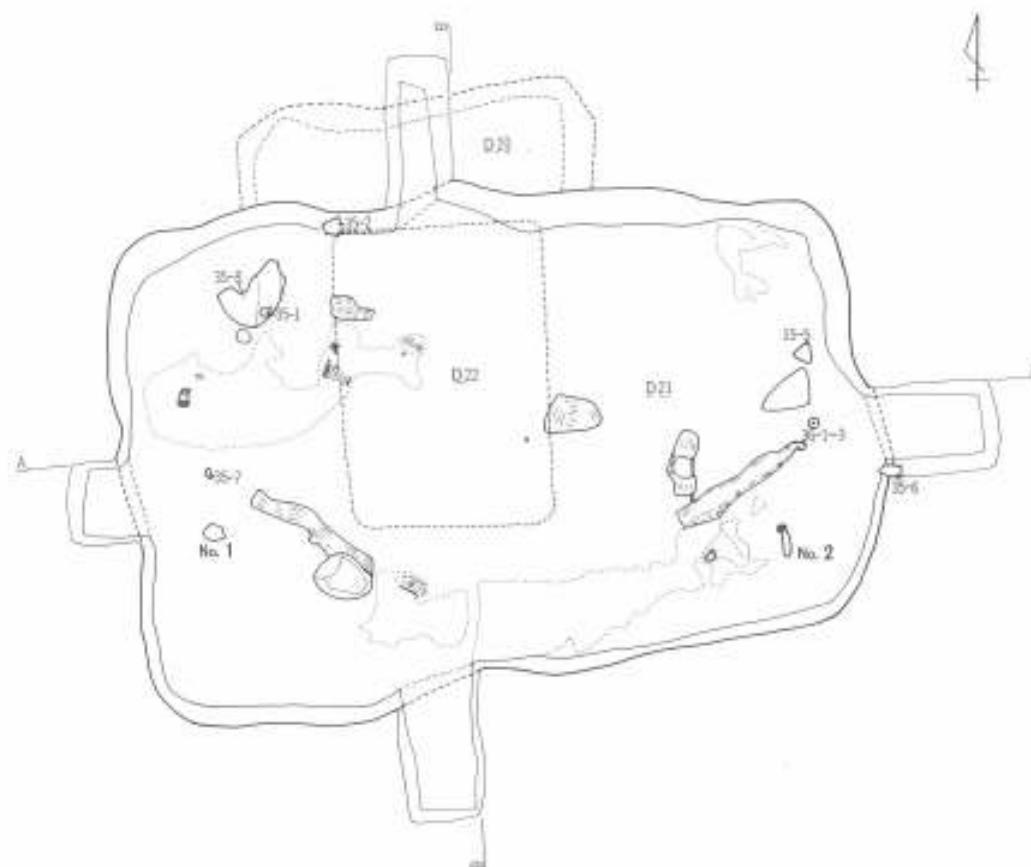
概要 号土壙によって切られていたが、平面形は長方形を呈すると思われる。覆土（5層）は灰褐色土であった。

規模 南辺の長さ約70cm、深さ17cm。

遺物 かわらけ、刀子が出土した。

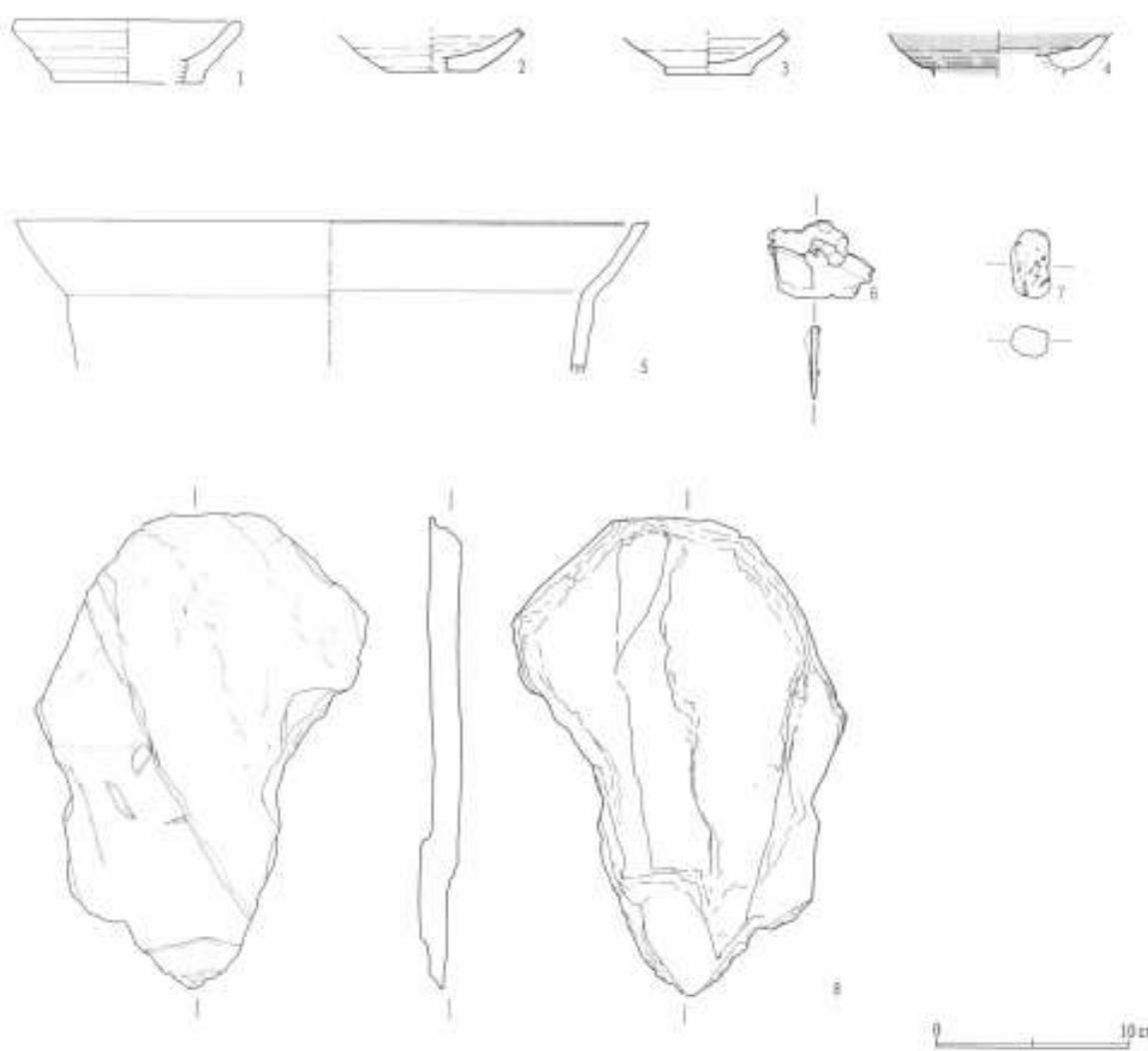


第33図 19号土壙出土遺物



0 10 20

第34図 20・21・22号土壤



第35図 21号土壙出土遺物

31—1 かわらけ。口径11cm、残存高2.3cm。中粒砂

を含み、淡褐色を呈す。残存率は口縁部の $\frac{1}{4}$ である。

31—5 鉄器（刀子）。残存長15.9cm、刃幅1.5cm、

厚さ4mm。茎長3cm、茎幅1cm。

31—3 かわらけ。本土壙の西10cmの所で出土。口径

11.6cm、底径6.8cm、器高1.9cm。中粒砂を含み、

褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率はまである。

19号土壙（第32・33図）

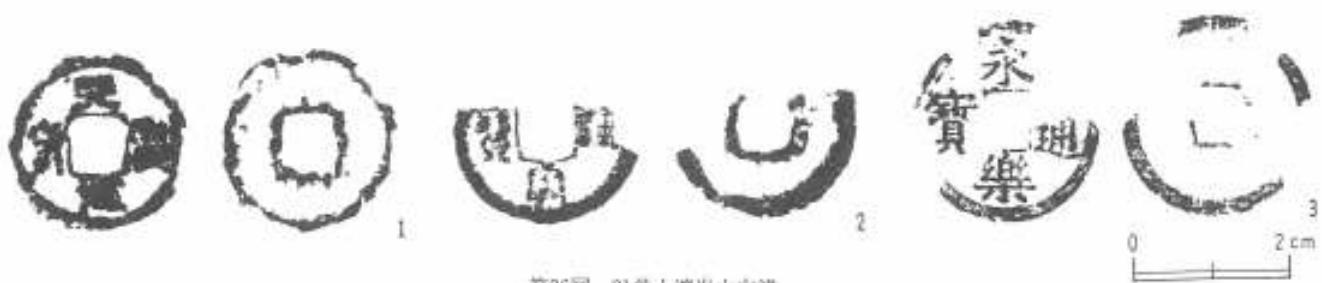
位 置 本遺構は、C—6グリッドの南側に検出され、平面形は長方形を呈していた。覆土は暗褐色土が堆積していた。

規 模 A—A'断面の長さ94cm、B—B'断面の長さ

1.19m、深さ17cm。

遺 物 握鉢、板碎片等が出土している。

33—1 握鉢。口径32cm、残存高8cm。中粒砂と少しの細礫を含み、黒灰褐色を呈す。残存率は口縁の



第36図 21号土壙出土古銭

古である。

20号土壤 (第34図)

位置 本遺構は、B-5グリッドの南東部に検出された。概要 され、21号土壤により切られていた。平面形は長方形を呈すると考えられ、覆土は14層が暗褐色砂質土、15・17層が砂層、16層が褐色砂質土であった。

規模 北辺の長さ約1.4m、深さ47cmを測る。
遺物 検出されなかった。

21号土壤 (第34~36図、図版5・9)

位置 本遺構は、20号土壤の南に検出され、20号概要 土壇を切り、22号土壤により切られていた。平面形は長方形を呈し、覆土は、1層炭化物が多い褐色土、4層褐色土、5層炭化物を含む暗褐色土、6層褐色土、7層褐色砂質土、8層炭化物を含む暗褐色土、9層灰褐色土、10層炭化物が多い黒褐色土、11層暗褐色砂質土、12層褐色土、13層焼土・炭化物を含む暗

褐色土であった。

規模 A-A'断面の長さ3.1m、B-B'断面の長さ2.4m、深さ52cmを測る。

遺物 かわらけ、内耳土器・青磁・鉄器・板石塔婆・古銭と、多くの焼土・炭化物が出土した。
35-1 かわらけ。口径11.5cm、底径7.2cm、器高3.1cm。中粒砂を含み、外面は暗淡褐色、内面は黒褐色で、残存率は古である。

35-2 かわらけ。底径4.6cm、残存高1.9cm。中粒砂を含み、淡黄褐色を呈し、残存率は古である。

35-3 かわらけ。底径4.2cm、残存高1.9cm。中粒砂を含み、淡黄褐色を呈し、残存率は古である。

35-4 碗 (青磁)。底径6.5cm、残存高2.1cm。残存率は、体部下半の古である。

35-5 内耳土器。口径32cm、残存高7.5cm。粗粒砂を含み、暗淡褐色を呈し、外面は擲げている。残存率は、口縁部の古である。

35-6 鉄器。残存長4.9cm、刀幅3.3cm、厚さ3mm。

35-7 鉄器 (釘)。残存長3.4cm。全面さびついでおり断面形不明。

35-8 板石塔婆。残存高24.5cm、残存幅17.1cm、厚さ1.9cm。緑泥片岩。

36-1 古銭。天聖元宝 (篆書体)。直径2.4cm。銅銭。

36-2 古銭。皇宋通宝 (篆書体)。直径2.5cm。銅銭。

36-3 古銭。永樂通宝 (真書体)。直径2.6cm。銅銭。

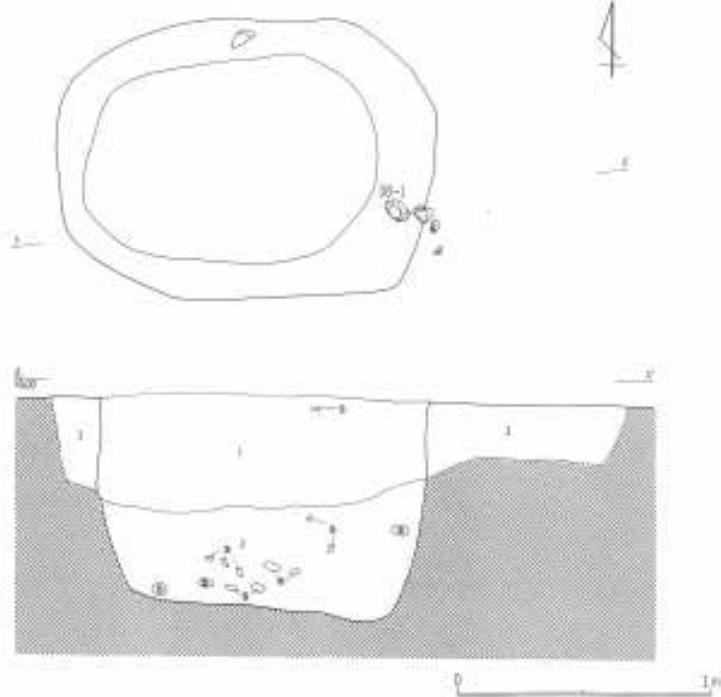


図37 23号土壤

22号土壤 (第34図)

位置 本遺構は、21号土壤と複合して検出された。平面形は長方形を呈すると考えられる。覆土は、1層炭化物含む褐色土、2層炭化物含む暗褐色土、3層灰褐色

土であった。

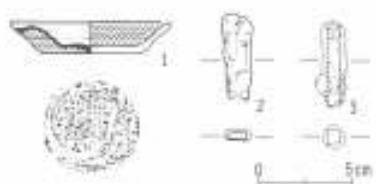
規 模 A-A'断面の長さ79cm、B-B'断面の長さ1.2m、深さ35cmである。

遺 物 検出されなかった。

23号土壤 (第37図、図版7)

位 置 本遺構は、C-5グリッドの北東部に検出

概 要 され、平面形は隅丸長方形であった。土層は



第38図 23・24号土壤出土遺物

1層炭化物含む暗褐色土、2層炭化物、砂礫含む暗褐色土、3層褐色土であった。

規 模 長軸の長さ1.5m、短軸の長さ1.11m、深さ88cmを測る。

遺 物 かわらけが出土している。

38-1 かわらけ。口径8.5cm、底径5cm、器高1.8cm。

中粒砂を含み、色調は淡褐色だが煤けて黒い。底面は回転糸切りで、残存率は半である。

24号土壤 (第38・39図、図版6)

位 置 本遺構は、C-5・6グリッドに検出され、

概 要 平面形は不整長方形を呈していた。覆土は炭化物を含む暗褐色土で、覆土上部には多くの川原石が配されていた。

規 模 長軸の長さ1.46m、A-A'断面の長さ86cm、深さ53cmを測る。

遺 物 土器・鉄器が出土した。

38-2 鉄器。残存長4.5cm、幅1cm、厚さ3mm。断面形は長方形である。

38-3 鉄器(釘)。残存長4.3cm、幅6.5mm、厚さ7mm。断面形は方形を呈す。

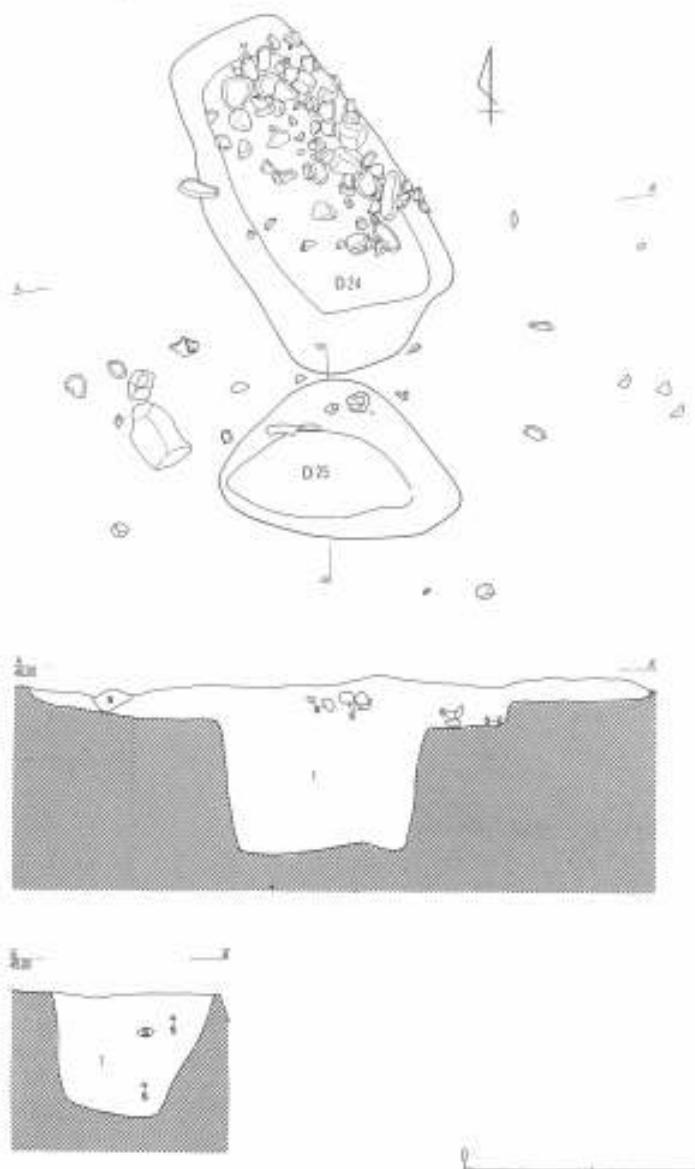
25号土壤 (第39図、図版6)

位 置 本遺構は、24号土壤の

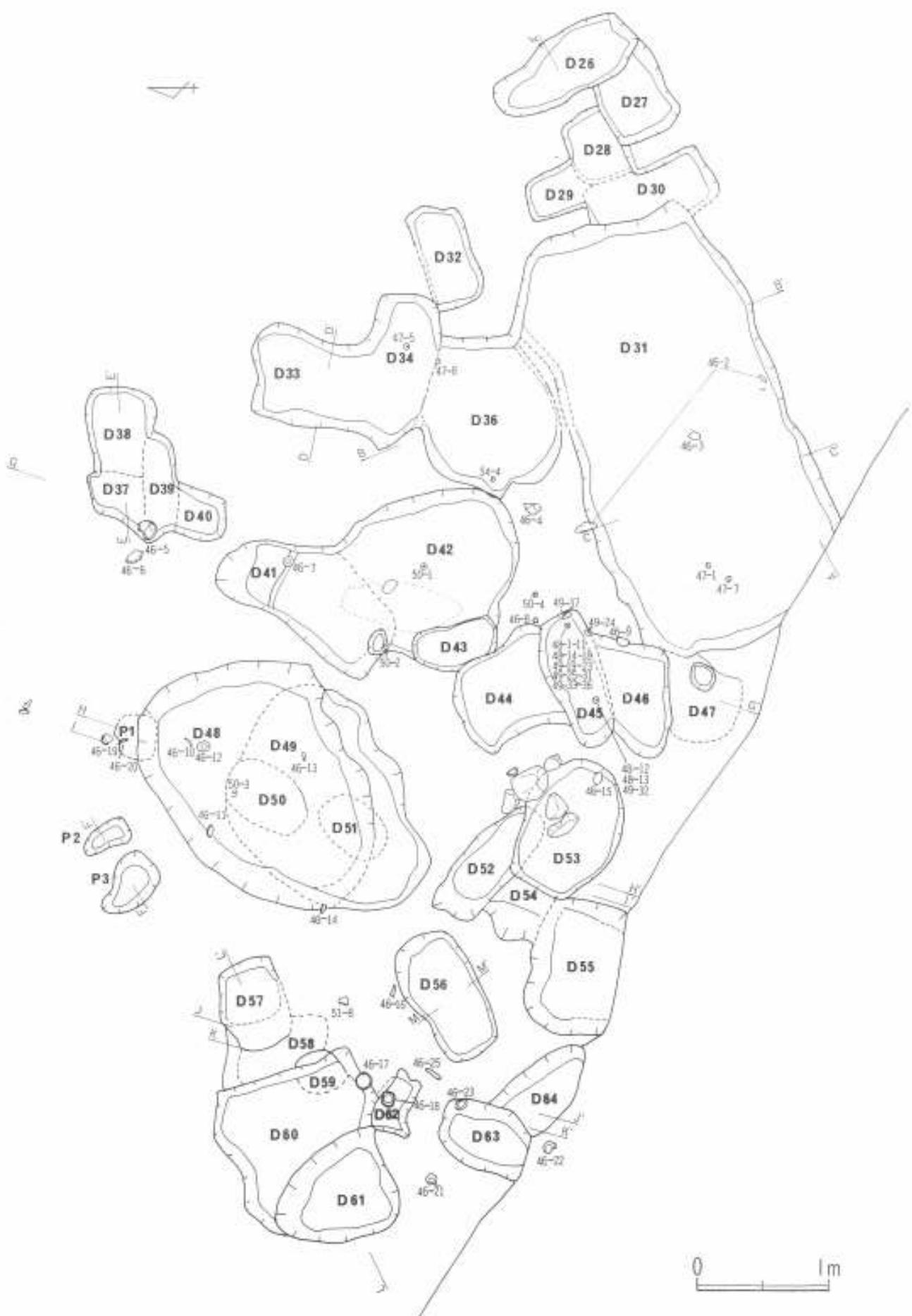
概 要 南に接して検出され、平面形は三角形を呈していた。覆土は炭化物含む暗褐色土であった。

規 模 B-B'断面の長さ64cm、東西方向の長さ97cm、深さ48cmを測る。

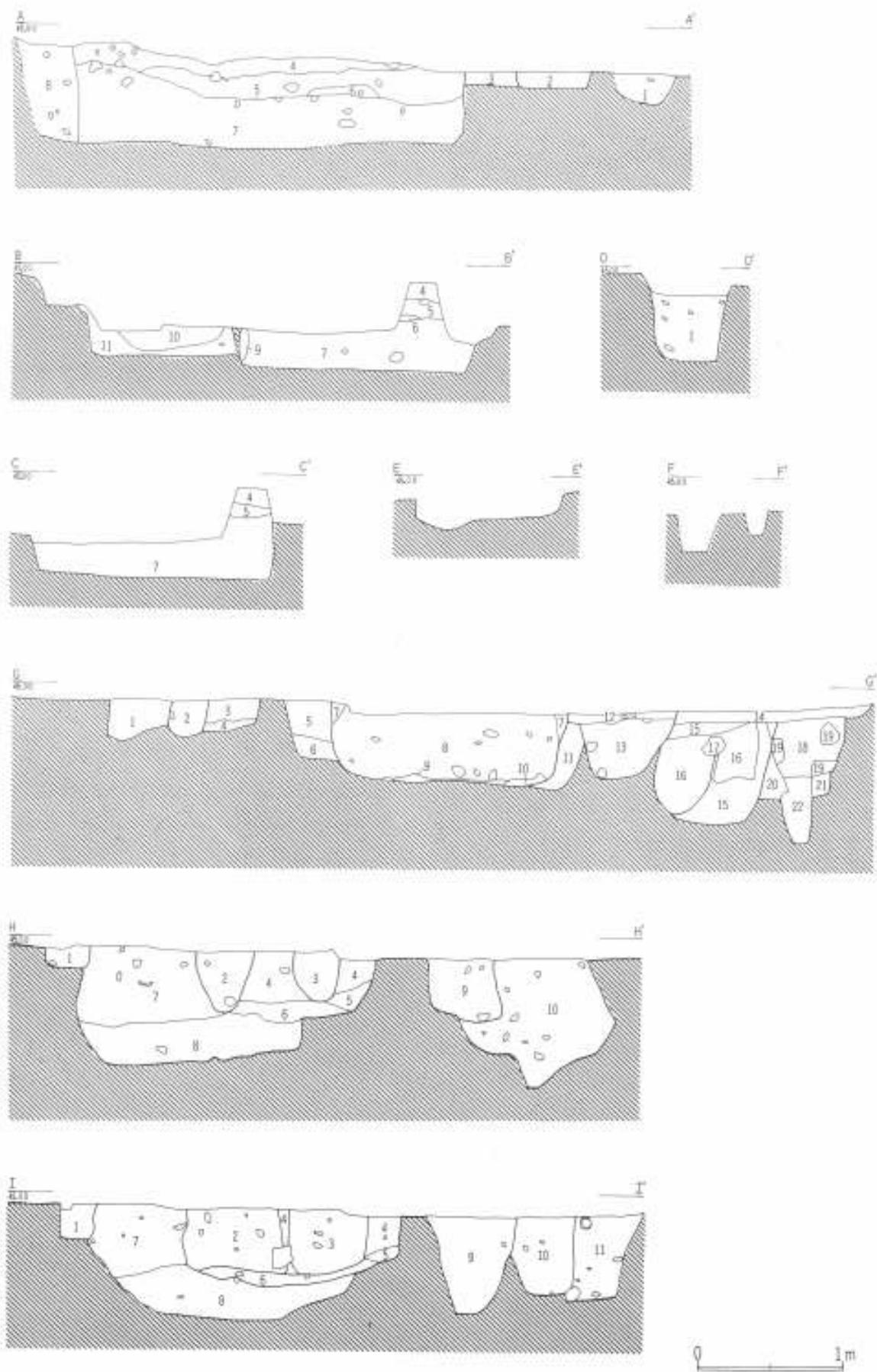
遺 物 土器が出土した。



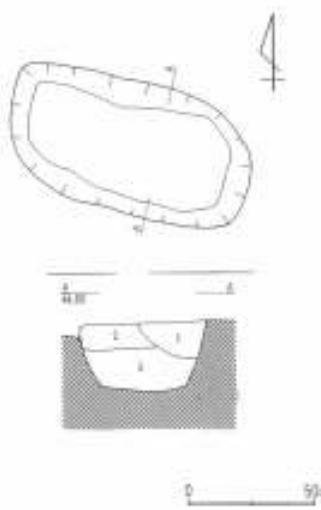
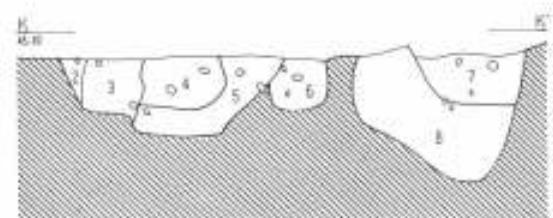
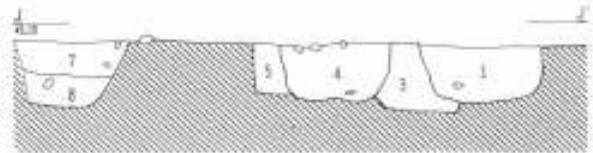
第39図 24・25号土壤



第40図 26~64号土壤・1~3号ピット



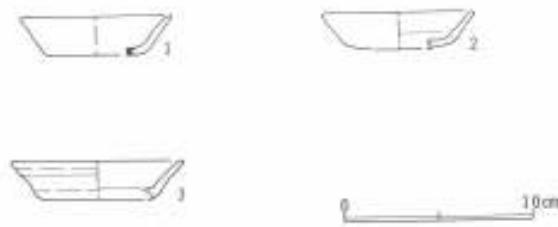
第41図 26~64号土壠・1~3号ピット断面図(1)



第44図 35号土壤



第42図 26~64号土壤・1~3号ピット断面図(2)



第45図 35号土壤出土遺物

26~64号土壤 (第40~49図、図版6)

26~64号土壤は、調査区の南側にまとまって検出された。それらの概要については表1で記し、遺物についての記載は下記に述べる。

26号土壤出土遺物 (第46図)

46-1 かわらけ。口径7.2cm、底径3.8cm、器高2.3cm。中粒砂含み、褐色を呈す。底部は回転糸切りで横目痕を有する。残存率は土である。

31号土壤出土遺物 (第46・47図)

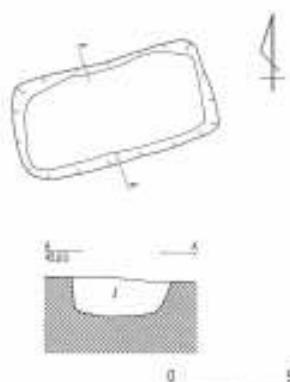
46-2 かわらけ。口径12.4cm、残存高2.3cm。中粒砂を含み、褐色・暗褐色を呈す。残存率は口縁部の土である。

46-3 橋鉢。底径10.6cm、残存高3.9cm。中粒砂・粗粒砂含み、灰褐色を呈す。残存率は底部の土である。

47-1 古銭。皇宋通宝(篆書体)。銅銭。

47-7 古銭。○○元寶(真書体)。銅銭。

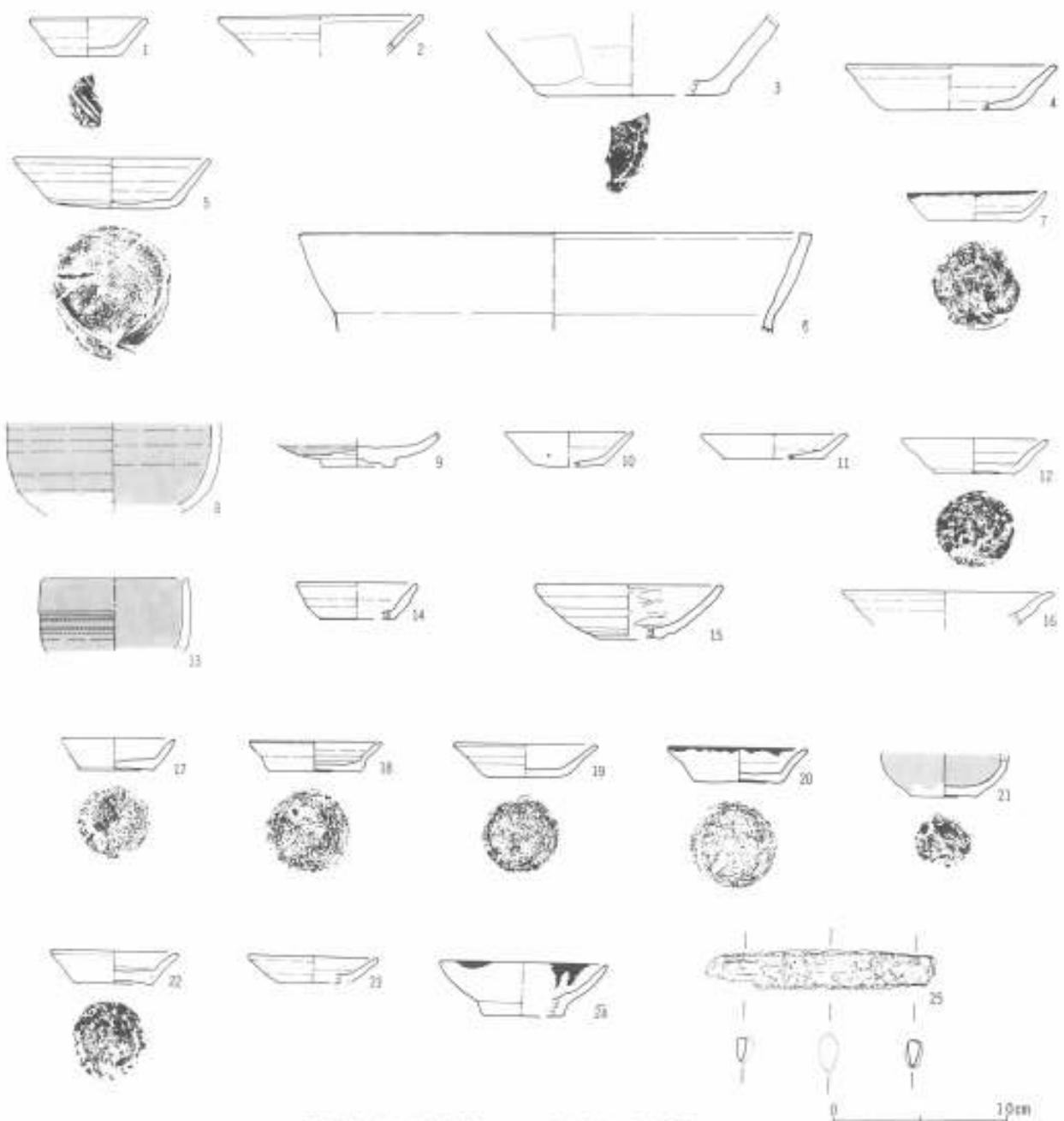
46-4 かわらけ。本土壤の北30cmの所から出土。口



第43図 32号土壤

表1 26~64号土壤一覧表

土壤番号	形態	規模(長径×短径×深さm)	土層	遺物
26	長方形	1.14×0.48×0.20	暗褐色土。	かわらけ。
27	長方形	不明×0.52×0.15	暗褐色土。	
28	長方形	約0.55×0.45×0.11	暗褐色土。	
29	長方形	不明×0.38×0.11	暗褐色土。	
30	長方形	0.97×0.50×0.10	暗褐色土。	
31	長方形	3.36×1.77×0.69	4.褐色土。5.暗褐色土。6.灰褐色粘土。7.暗灰褐色土(炭化物を含む)。8.暗褐色土(礫を含む)。9.褐色土。	かわらけ。擂鉢。古鏡。
32	長方形	0.78×0.39×0.16	暗褐色土(炭化物を含み、砂質)。	
33	長方形	不明×0.72×0.60	暗褐色土(砂・礫を多く含む)。	
34	長方形	1.14×0.50×0.60	暗褐色土。	
35	長方形	0.98×0.50×0.28	1.暗褐色土(炭化物を含む)。2.暗褐色土(炭化物を少し含む)。3.灰褐色土(炭化物を含む)。	
36	方形?	1.14×1.05×0.46	10.暗灰褐色土(炭化物を含む)。11.暗褐色土(炭化物を含む)。	
37	長方形?	不明×約0.36×0.30	暗褐色土(炭化物を含む)。	
38	長方形	不明×0.52×0.20	暗褐色土。	
39	長方形	0.83×0.24×0.26	暗褐色土(D37の1より暗く、炭化物を含む)。	かわらけ。
40	長方形?	不明×0.35×0.23	3.暗褐色土(D39の2より暗く、炭化物を含む)。4.褐色土(炭化物を含む)。	かわらけ。古鏡。
41	長方形?	1.38×0.65×0.43	5.暗褐色土(炭化物を含む)。6.褐色土(砂質)。	
42	長方形?	1.92×1.12×0.60	7.黒褐色土(砂質)。8.暗褐色土(炭化物・礫を含む)。9.炭化物。10.焼土・炭化物。	
43	長方形	0.63×0.33×0.62	11.黒褐色土。	
44	長方形	不明×0.77×0.55	12.黒褐色土(砂を多く含み、礫も含まれる)。13.黒褐色土(礫を含む)。	天目茶碗。
45	長方形	1.01×0.43×0.78	14.黒褐色土。15.暗褐色土。16.暗灰白色粘土。17.暗黄褐色土。	古鏡37点。
46	長方形?	南辺0.8×不明×0.85	16.暗灰白色粘土。23.暗褐色土。	かわらけ、碗(白磁)。
47	不明	不明×0.98	18.褐色土。19.灰白色粘土。20.褐色土(砂質)。21.灰褐色土(砂を含む)。22.灰褐色土(砂を多く含む)。	
48	隅丸三角形	南辺1.65×東辺1.35×0.83	7.暗褐色土(炭化物を含む)。8.暗灰褐色土(砂・炭化物を含む)。	かわらけ。
49	隅丸三角形	南辺1.75×不明×0.54	4.暗褐色土(少しの炭化物を含む)。5.暗褐色土(炭化物を含む)。6.暗褐色土(多くの炭化物と少しの焼土を含む)。	かわらけ、茶碗(瀬戸美濃)。
50	不明	I-P断面0.63×0.48	2.暗褐色土(炭化物を含む)。	古鏡。
51	不明	I-P断面0.54×0.51	3.暗褐色土(炭化物を含む)。	
52	長方形	1.0×0.4×0.77	9.暗褐色土(炭化物を含む)。	かわらけ。
53	楕円形	1.03×0.76×0.97	10.暗褐色土(粘土粒子を多く含み、炭化物も含む)。	
54	不明	不明×0.52	暗褐色土。	
55	方形?	1.03×不明×0.67	11.暗褐色土(砂・礫を含む)。	
56	長方形	1.0×0.55×0.30	1.暗褐色土。2.暗褐色土(炭化物を含む)。	皿(瀬戸)。
57	長方形	0.66×0.52×0.32	1.暗褐色土(炭化物を含む)。	
58	長方形?	0.75×不明×0.37	3.暗褐色土(炭化物を含み、1より暗い)。	
59	不明	K-K'断面0.58×0.33	4.暗褐色土(炭化物を含む)。	
60	方形?	東辺1.05×不明×0.44	5.暗褐色土(炭化物を含み、砂質)。	かわらけ。
61	三角形	西辺0.92×南辺0.7×0.75	暗褐色土。	
62	長方形	0.48×0.25×0.30	6.暗褐色土。	かわらけ。
63	長方形	不明×0.48×0.73	9.褐色土(砂質)。	かわらけ。
64	不明	不明×0.35	7.黒褐色土(炭化物を含む)。8.暗褐色土(炭化物を含む)。	



第46図 26-64号土壙、1～3号ピット出土遺物

径12cm、底径7.4cm、器高2.6cm。中粒砂を含み、暗淡褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半である。

34号土壙出土遺物（第47図）

47-5 古銭。洪武通宝（真書体）。直径2.3cm。銅錢。

35号土壙出土遺物（第45図）

45-1 かわらけ。口径8cm、底径5.4cm、器高2.1cm。中粒砂含み、褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半である。

45-2 かわらけ。口径8cm、底径5.8cm、器高2cm。

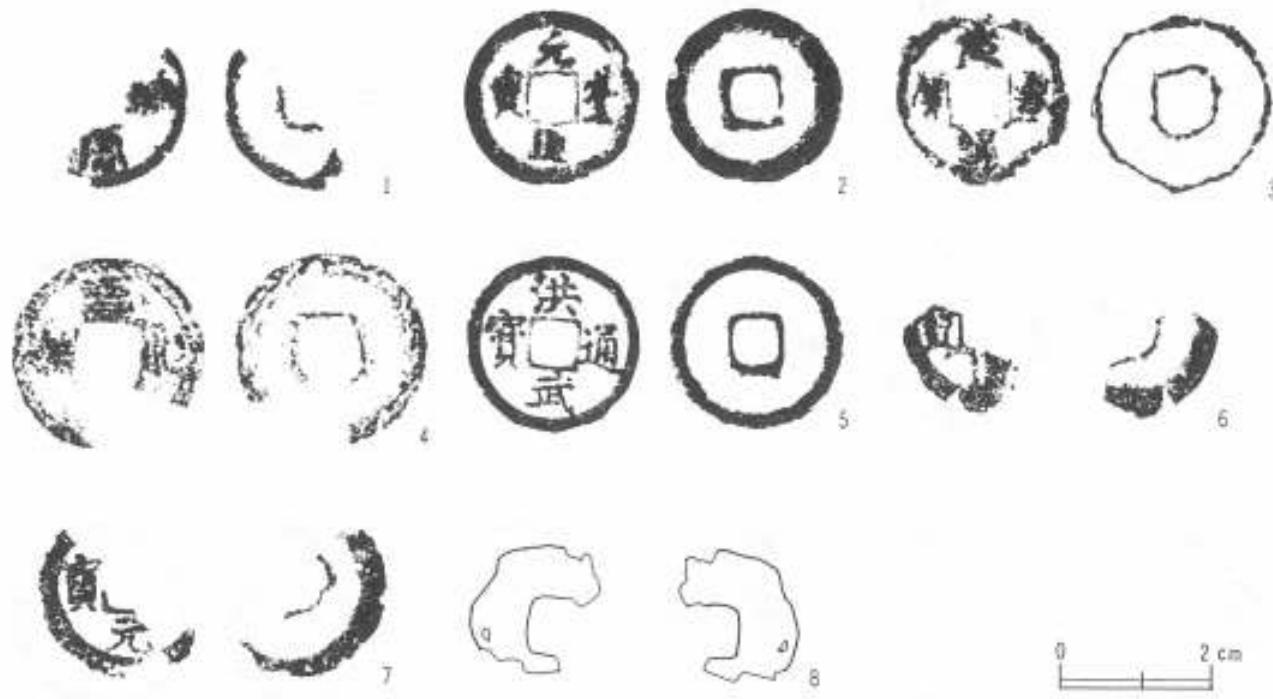
中粒砂含み、淡褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は十である。

45-3 かわらけ。口径9.2cm、底径5.8cm、器高2cm。中粒砂含み、褐色を呈す。残存率は半である。

36号土壙出土遺物

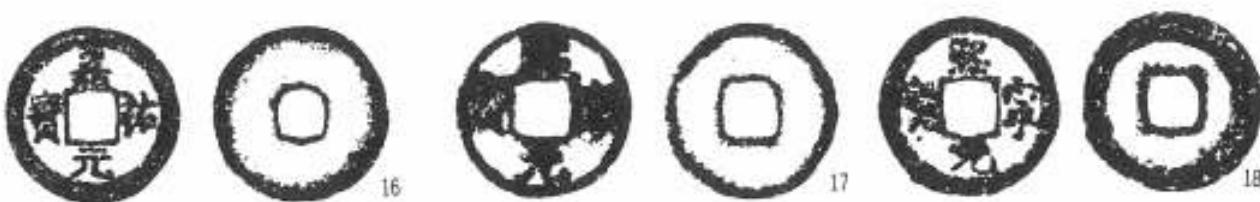
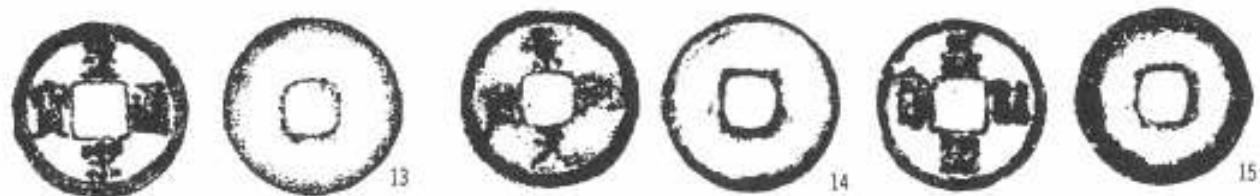
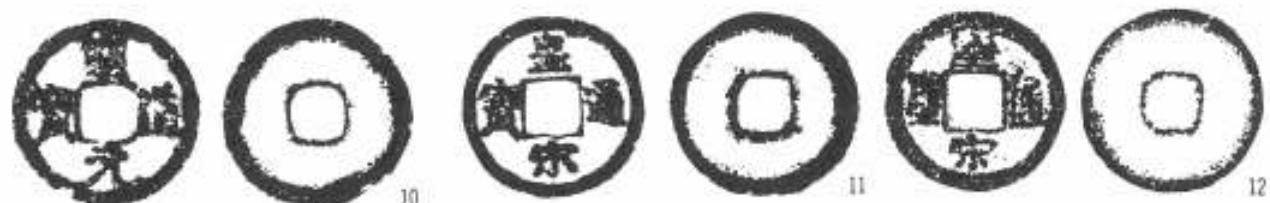
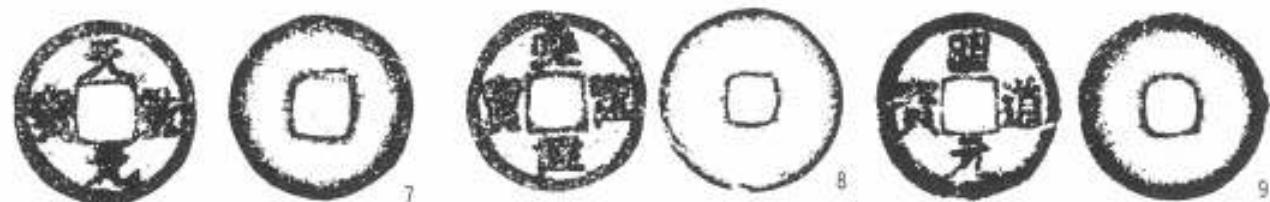
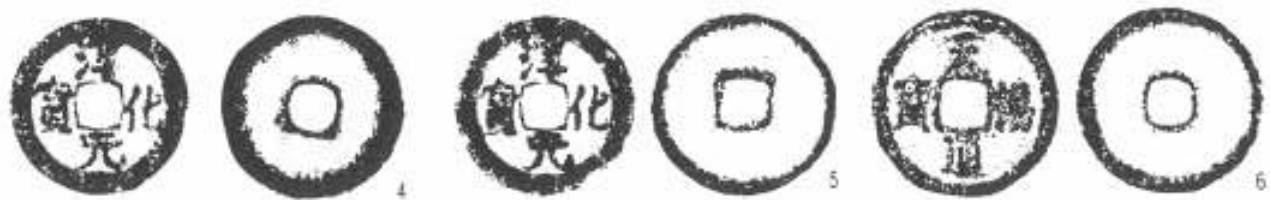
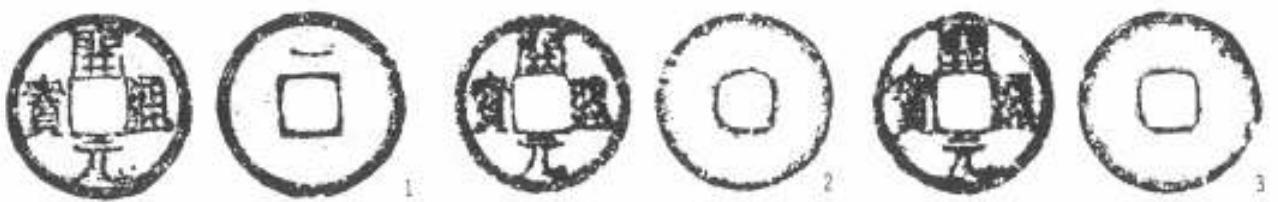
47-8 古銭。不明。銅錢。

39号土壙出土遺物（第46図、図版6・9）
46-5 かわらけ。口径11.9cm、底径7cm、器高3cm。中粒砂・粗粒砂を含み、褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半である。



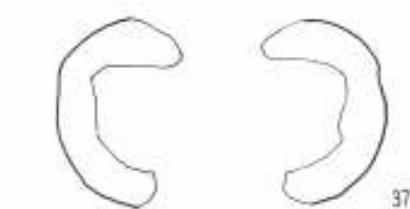
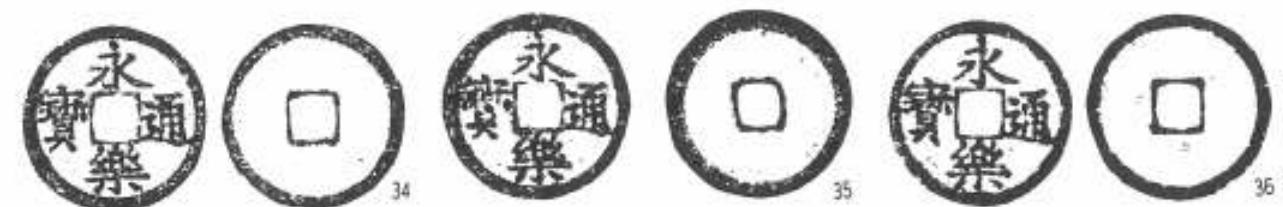
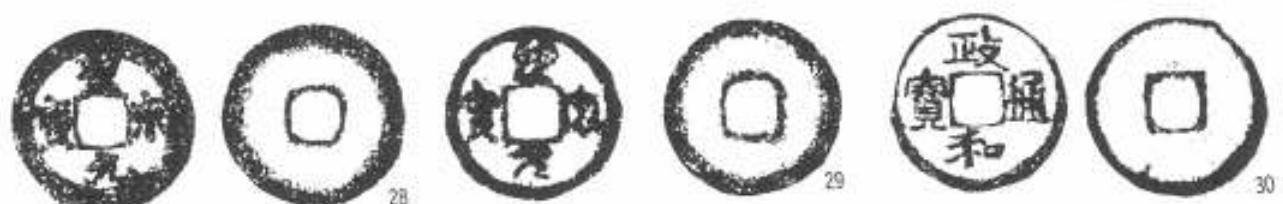
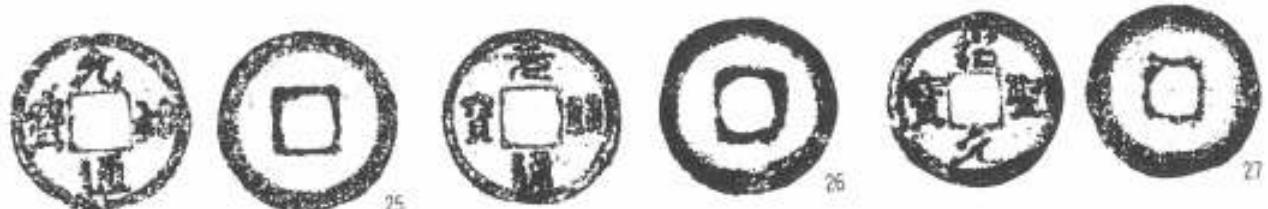
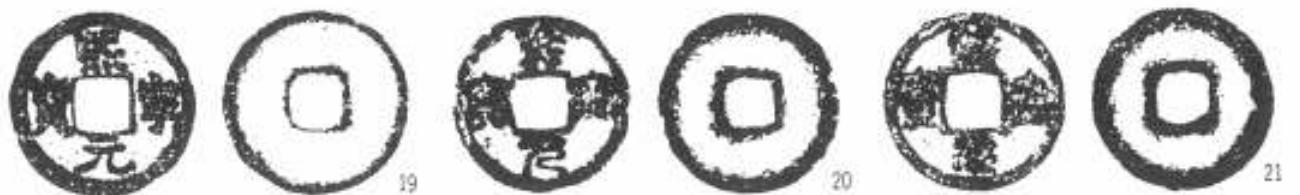
第47図 31・34・36号土壙及びグリッド出土古銭

- 46—6 内耳土器。口径30.4cm、残存高6cm。中粒砂・粗粒砂を含み、灰褐色を呈す。残存率は口縁部の半分である。
- 46—7 かわらけ。口径7.9cm、底径5.3cm、器高1.8cm。中粒砂・粗粒砂を含み、暗淡褐色を呈し、口縁は煤けて黒い。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。
- 46—8 天目茶碗。残存高5.6cm。地の色調は淡黄褐色で鉄釉が施され、残存率は体部の半分である。
- 47号土壙出土遺物 (第46図、図版6・9)
- 48—6 古銭。天祐通宝 (真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 48—7 古銭。天聖元宝 (真書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 48—8 古銭。天聖元宝 (篆書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 48—9 古銭。明道元宝 (真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 48—10 古銭。明道元宝 (真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 48—11 古銭。皇宋通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—12 古銭。皇宋通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—13 古銭。皇宋通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—14 古銭。景德元宝 (真書体)。直径2.3cm。銅銭。
- 48—15 古銭。嘉祐通宝 (篆書体)。直径2.3cm。銅銭。
- 48—16 古銭。嘉祐通宝 (真書体)。直径2.3cm。銅銭。
- 48—17 古銭。熙寧元宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—18 古銭。熙寧元宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—19 古銭。熙寧元宝 (真書体)。直径2.45cm。銅銭。
- 48—20 古銭。熙寧元宝 (篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—21 古銭。熙寧元宝 (篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—22 古銭。熙寧元宝 (篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—23 古銭。元豐通宝 (篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—24 古銭。元祐通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—25 古銭。元祐通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 48—26 古銭。元祐通宝 (篆書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 49号土壙出土遺物 (第46図)
- 49—1 古銭。開元通宝 (真書体)。直径2.5cm。銅銭。
- 49—2 古銭。開元通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 49—3 古銭。開元通宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 49—4 古銭。淳化元宝 (真書体)。直径2.4cm。銅銭。
- 49—5 古銭。淳化元宝 (真書体)。直径2.45cm。銅銭。



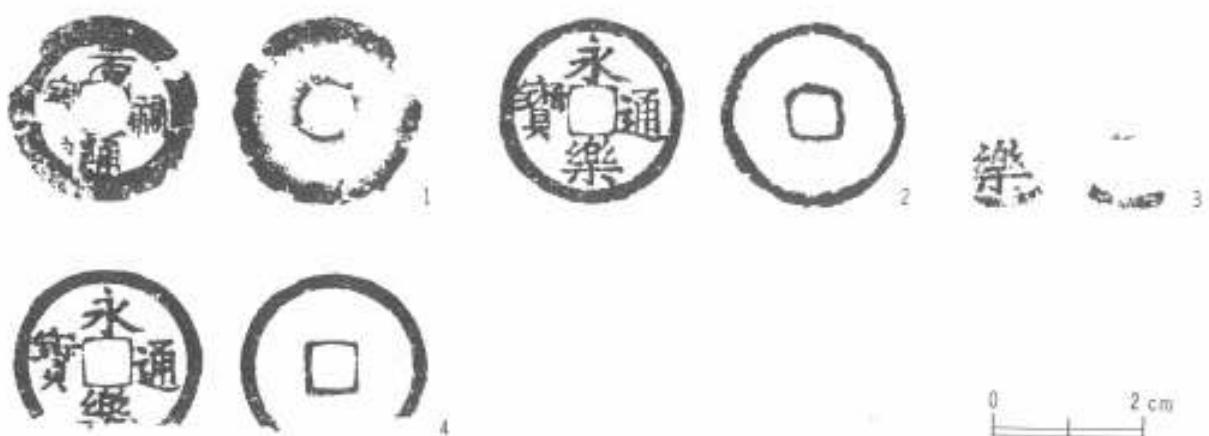
0 2 cm

第48図 45号土塚出土古銭(1)



0 2 cm

第49圖 45号土壤出土古錢(2)



第50図 42・50号土壤出土古銭

- | | |
|--------------------------------|--|
| 49-27 古銭。紹聖元宝（真書体）。直径2.3cm。銅銭。 | 存率は底部の半分である。 |
| 49-28 古銭。聖宋元宝（真書体）。直径2.4cm。銅銭。 | 46-24 かわらけ。口径10cm、底径4.6cm、器高3.2cm。中粒砂を含み、淡黄褐色を呈す。残存率は半分である。 |
| 49-29 古銭。聖宋元宝（篆書体）。直径2.4cm。銅銭。 | |
| 49-30 古銭。政和通宝（真書体）。直径2.4cm。銅銭。 | |
| 49-31 古銭。洪武通宝（真書体）。直径2.4cm。銅銭。 | 48号土壤出土遺物（第46図、図版6・9） |
| 49-32 古銭。洪武通宝（真書体）。直径2.3cm。銅銭。 | 46-10 かわらけ。口径7.6cm、底径4cm、器高2cm。細粒砂含み、淡褐色を呈す。底部は回転糸切りである。 |
| 49-33 古銭。永樂通宝（真書体）。直径2.5cm。銅銭。 | |
| 49-34 古銭。永樂通宝（真書体）。直径2.4cm。銅銭。 | 46-11 かわらけ。口径9.6cm、底径5.8cm、器高1.4cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。 |
| 49-35 古銭。永樂通宝（真書体）。直径2.5cm。銅銭。 | |
| 49-36 古銭。永樂通宝（真書体）。直径2.5cm。銅銭。 | 46-12 かわらけ。口径8.3cm、底径4.5cm、器高2cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈し部分的に暗い所がある。底部は回転糸切りで、完存している。 |
| 49-37 古銭。不明。直径2.5cm。銅銭。 | |

46号土壤出土遺物（第46図、図版9）

46-9 瓢（白磁）。底径4.4cm、残存高1.8cm。残

46-12 かわらけ。口径8.3cm、底径4.5cm、器高2cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈し部分的に暗い所がある。底部は回転糸切りで、完存している。

49号土壤出土遺物（第46図）

46-13 茶碗（瀬戸美濃）。口径9cm、残存高4.5cm。地の色調は灰白色で、灰釉が内面と外面上半、鉄釉が外面下半に施される。残存率は半分である。

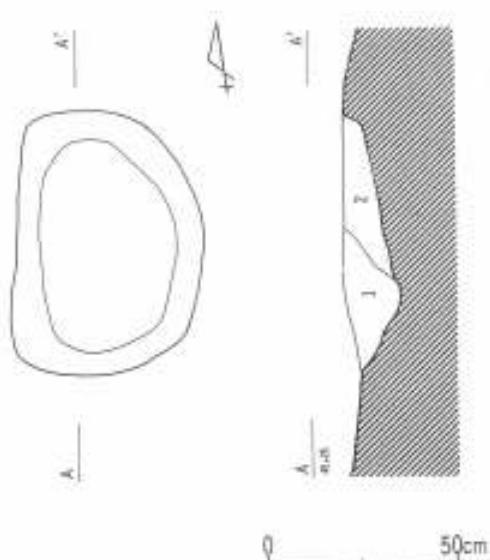
46-14 かわらけ。口径7.3cm、底径4.5cm、器高2.2cm。中粒砂を含み、褐色を呈す。残存率は半分である。

50号土壤出土遺物（第50図）

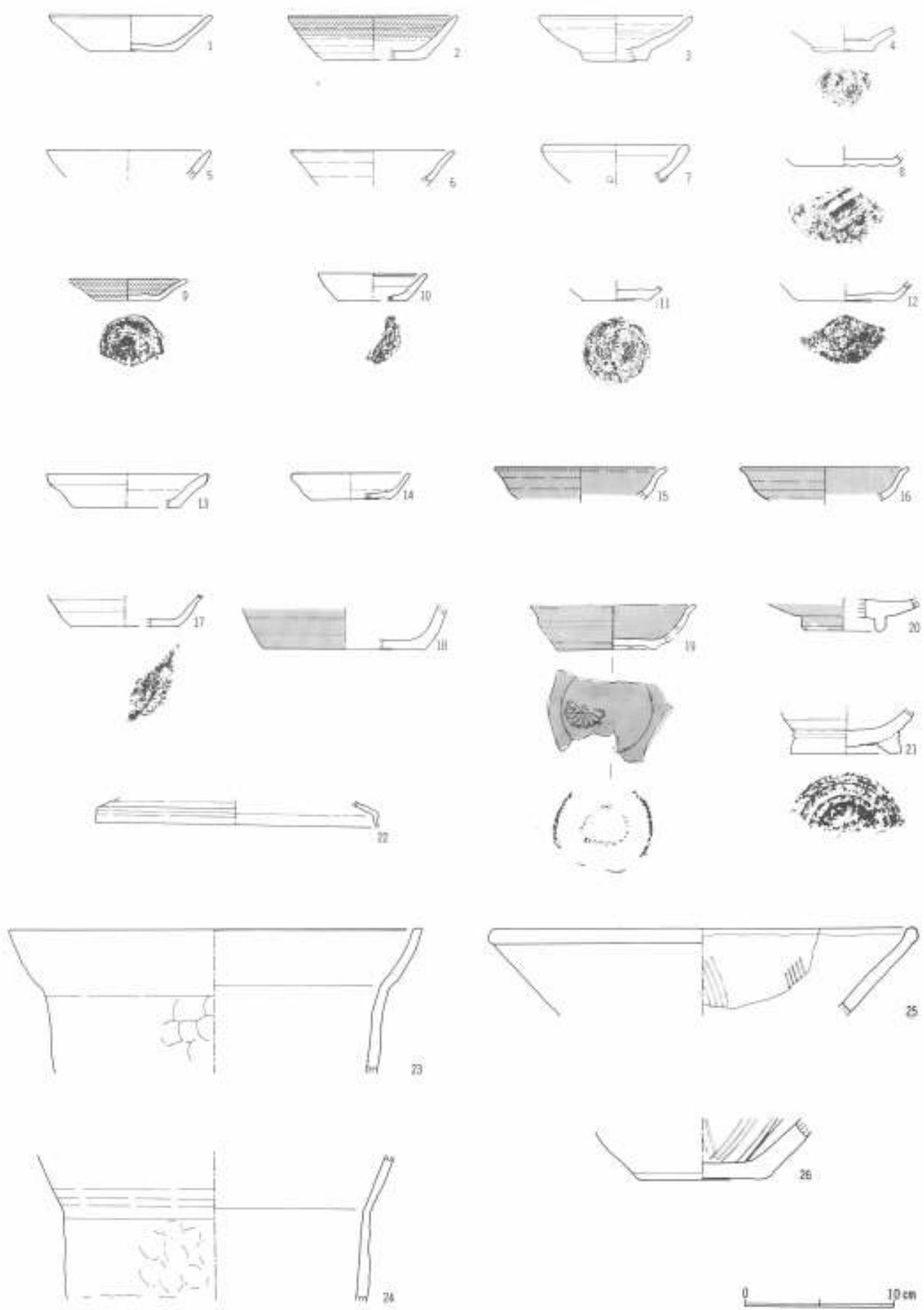
50-3 古銭。永樂通宝（真書体）。銅銭。

53号土壤出土遺物（第46図）

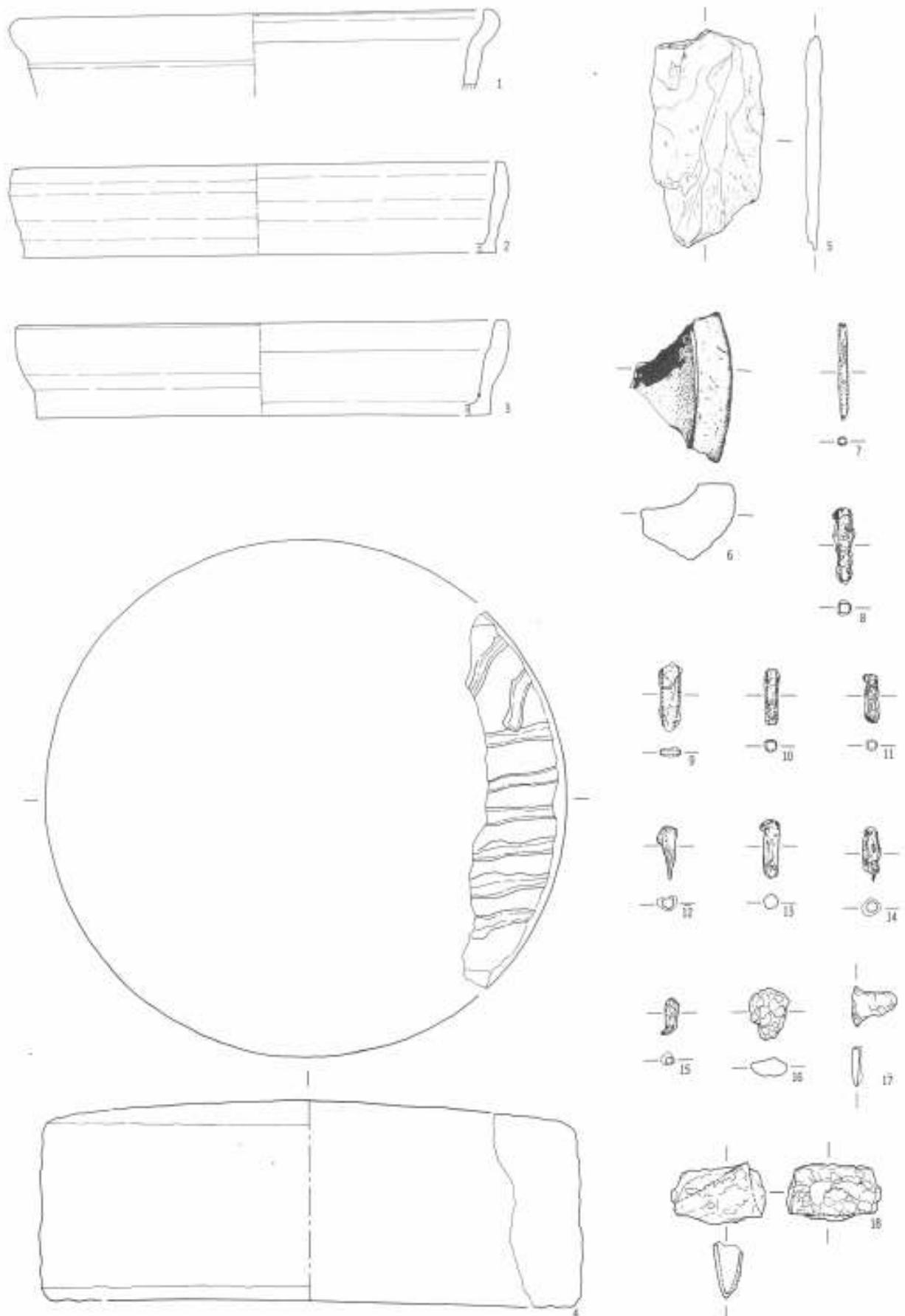
46-15 かわらけ。口径11cm、底径3.8cm、器高3.2cm。中粒砂を含み、暗淡褐色を呈す。残存率は半分である。



第51図 1号火葬墓

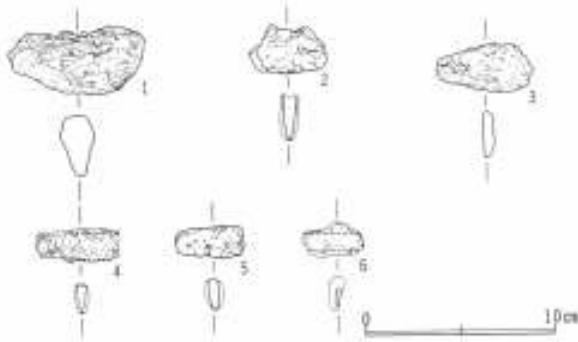


第52図 グリッド出土遺物(1)



第53図 グリッド出土遺物(2)

0 10mm



第54図 グリッド出土遺物(3)

である。

56号土壤出土遺物 (第46図)

46-16 皿 (瀬戸)。口径12.2cm、残存高2cm。地の色調は淡黄褐色で、灰釉が施されている。残存率は口縁部の半分である。

60号土壤出土遺物 (第46図、図版7)

46-17 かわらけ。口径6.9cm、底径4.7cm、器高1.9cm。中粒砂を含み、淡褐色で底部に黒斑を有する。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。

62号土壤出土遺物 (第46図、図版7)

46-18 かわらけ。口径7.9cm、底径5.5cm、器高1.8cm。中粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。

63号土壤出土遺物 (第46図、図版7・9)

46-22 かわらけ。口径7.8cm、底径4.7cm、器高2cm。中粒砂・粗粒砂を含み、淡褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。

46-23 かわらけ。口径7.8cm、底径4.2cm、器高1.6cm。中粒砂を含み、淡褐色、褐色を呈す。残存率は半分である。

46-21 小碗 (瀬戸)。底径3.6cm、残存率2.5cm。地の色調は灰褐色で、灰釉が施されている。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。本土壤の東20cmの所から出土した。

46-25 鉄器 (刀子)。残存長13.5cm、刃幅1.8cm、厚さ3mm、基長2.7cm、基幅1.5cm。基に木質部が見られる。本土壤の北16cmの所から出土した。

1号ピット (第40・46図、図版7・9)

位 置 本遺構は、48号土壤の北側にあり、平面形

概 要 は方形を呈していた。覆土は炭化物含む暗褐色土が堆積していた。

遺 物 かわらけが出土した。

46-19 かわらけ。口径8.4cm、底径4.7cm、器高2cm。中粒砂を含み、褐色を呈す。底部は回転糸切りで、残存率は半分である。

46-20 かわらけ。口径8.1cm、底径5.2cm、器高2cm。中粒砂・粗粒砂を含み、暗淡褐色を呈し、口唇部は煤けて黒い。底部は回転糸切りで、ほぼ完形である。

2・3号ピット (第40図)

位 置 2・3号ピットは、1号ピットの西側に検出された。両ピットとも不整三角形を呈し、覆土は暗褐色土であった。

規 模 2号ピットは長軸の長さ38cm、深さ17cm、3号ピットは長軸の長さ50cm、深さ26cm。

遺 物 検出されなかった。

1号火葬墓 (第51図)

位 置 本遺構は、A-A'グリッドから検出され、平面形は不整長方形を呈していた。覆土は1層が暗褐色土 (多くの骨片と炭化物を含む)、2層が暗褐色土 (骨片・炭化物・焼土を含む)であった。

規 模 A-A'断面の長さ67cm、深さ15cmを測る。

遺 物 人骨が出土した。

グリッド出土遺物 (第52~54図、図版10)

52-1 かわらけ。口径11.4cm、底径5.9cm、器高2.5cm。中粒砂。淡褐色。残存率半分。

52-2 かわらけ。B-6G出土。口径12cm、底径7cm、

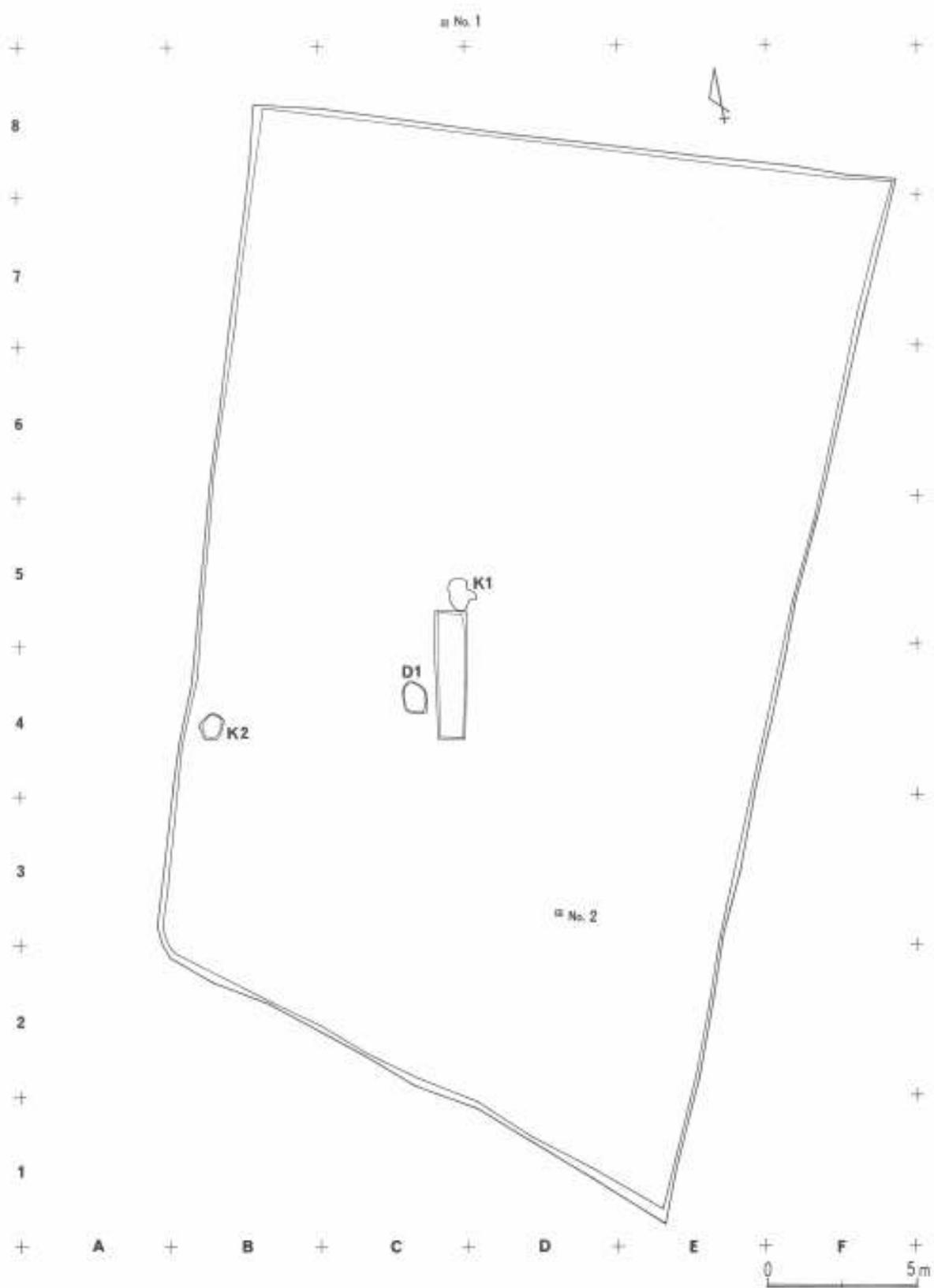
器高3.1cm。中・粗粒砂。淡褐色。残存率半分。

52-3 かわらけ。B-7G出土。口径10.8cm、底径4.6cm。器高3.2cm。中粒砂。白褐色。残存率半分。

52-4 かわらけ。C-3G出土。底径4.2cm、残存高1.4cm。中粒砂。白褐色。残存率半分。

52-5 かわらけ。C-5G出土。口径11.4cm、残存高

- 2 cm。少しの中粒砂。淡褐色。残存率は口縁の半。
52-6 かわらけ。D-4G出土。口径11.4cm、残存高
2.5cm。中粒砂。褐色。残存率は口縁の半。
- 52-7 かわらけ。C-6G出土。口径9.9cm、残存高
2.7cm。中粒砂。淡褐色。外面に円形の貼付を有
す。残存率は口縁の半。
- 52-8 かわらけ。C-6G出土。底径6.8cm、残存高
5mm。中粒砂。暗褐色。底部に柱目痕を有す。残
存率は底部の半。
- 52-9 かわらけ。B-8G出土。口径8.2cm、底径4.4
cm、器高1.5cm。中粒砂。黒褐色。底部は回転糸
切り。残存率は半。
- 52-10 かわらけ。B-4G出土。口径7.6cm、底径4.8
cm、器高1.9cm。中粒砂。褐色。底部は回転糸切
り。残存率は半。
- 52-11 かわらけ。C-1G出土。底径4.7cm、残存高
8mm。中粒砂。淡褐色。残存率は半。
- 52-12 かわらけ。B-9G出土。底径6.5cm、残存高
1.2cm。中粒砂。褐色。残存率は底部の半。
- 52-13 かわらけ。D-4G出土。口径11.2cm、底径7.4
cm、器高2.3cm。中粒砂。淡褐色。残存率は半。
- 52-14 かわらけ。C-2G出土。口径8.3cm、底径5.6
cm、器高1.8cm。中粒砂。淡褐色。残存率は半。
- 52-15 小皿(瀬戸)。B-5G出土。口径11.8cm、残
存高2.2cm。灰釉。残存率は口縁の半。
- 52-16 小皿(瀬戸)。B-5G出土。口径11.7cm、残
存高2.3cm。灰釉。残存率は半。
- 52-17 かわらけ。C-6G出土。底径7.4cm、残存高
2.1cm。中粒砂。褐色。残存率は底部の半。
- 52-18 徳利。D-6G出土。底径11.2cm、残存高2.8
cm。地の色は淡褐色。鉄筋。残存率は底部の半。
- 52-19 小皿(瀬戸)。C-4G出土。口径11.2cm、底
径6.6cm、推定高3.2cm。灰釉で菊文を有す。残
存率は半。
- 52-20 瓢(青磁)。C-7G出土。底径5cm、残存高
1.8cm。残存率は底部の半。
- 52-21 瓢(瀬戸)。底径7.3cm、残存高2.8cm。白
褐色。残存率は底部の半。
- 52-22 蓋(須恵器)。D-7G出土。口径19.6cm、残
存高1.8cm。中粒砂。灰白色。残存率は端部の半。
- 52-23 内耳土器。C-4G出土。口径29cm、残存高10
cm。中粒砂。灰褐色。残存率は半。
- 52-24 内耳土器。B-6G出土。頭部径21.4cm、残存
高10cm。中・粗粒砂。外面は赤褐色、内面は淡褐
色と黒色。残存率は半。
- 52-25 摺鉢。C-7G出土。口径29cm、残存高6cm。
中・粗粒砂。外面は赤褐色、内面は黒色。残存率
は口縁の半。
- 52-26 摋鉢。B-5G出土。底径8.8cm、残存高3.3
cm。粗粒砂。暗淡褐色。残存率は底部の半。
- 53-1 摋鉢。C-7G出土。口径34cm、残存高5.5cm。
粗粒砂。黒灰褐色。残存率は口縁の半。
- 53-2 内耳土器。C-4G出土。口径34.2cm、底径32.8
cm、器高6.3cm。粗粒砂。黒色。残存率は半。
- 53-3 内耳土器。D-6G出土。口径35.2cm、底径31.4
cm、器高6.5cm。粗粒砂。黒褐色。残存率は半。
- 53-4 石臼。D-7G出土。直径36.1cm、厚さ14.1cm。
安山岩で焼けて黒い所がある。下臼。残存率は半。
- 53-5 板石塔婆。D-7G出土。残存高15.1cm、残存
幅7.8cm、厚さ1.2cm。緑泥片岩。
- 53-6 茶臼。C-7G出土。直径20.1cm、残存厚5.3
cm。安山岩で、上面に布が付着。下臼。残存率は
半。
- 53-7 鉄器(釘)。B-7G出土。残存長5.7cm、幅4
mm、厚さ4mm。断面形は方形。
- 53-8 鉄器(釘)。D-5G出土。残存長5.3cm、幅
7mm、厚さ6mm。断面形は方形。
- 53-9 鉄器。D-5G出土。残存長4.8cm、幅1.1cm、
厚さ3mm。断面形は長方形。
- 53-10 鉄器(釘)。B-4G出土。残存長3.9cm、幅
6mm、厚さ6mm。断面形は方形。
- 53-11 鉄器(釘)。B-4G出土。残存長3.4cm、幅
6mm、厚さ5mm。断面形は方形。
- 53-12 鉄器(釘)。B-8G出土。残存長3.6cm、幅
6mm、厚さ7mm。断面形は台形。
- 53-13 鉄器(釘)。残存長4cm、幅6mm、厚さ6mm。



第55圖 社裏南遺跡全測図

- 断面形は方形。 厚さ 8 mm。
 53-14 鉄器。B-8G 出土。残存長 3.8 cm、幅 7 mm。 54-2 鉄器(刀子)。B-7G 出土。残存長 4 cm、幅
 厚さ 6 mm。断面形は梢円形。 2.4 cm、厚さ 7 mm。
 53-15 鉄器(釘)。B-1G 出土。残存長 2.7 cm、幅 4 mm、厚さ 4 mm。断面形は方形。 54-3 鉄器(刀子)。B-7G 出土。残存長 5 cm、幅
 2.5 cm、厚さ 5 mm。
 53-16 鉄器。D-3G 出土。残存長 3.6 cm、幅 2.5 cm、厚さ 1.2 cm。 54-4 鉄器(刀子)。B-4G 出土。残存長 4.3 cm、
 幅 1.5 cm、厚さ 5 mm。
 53-17 鉄器(刀子)。B-5G 出土。残存長 3.1 cm、幅 2.6 cm、厚さ 3 mm。 54-5 鉄器(刀子)。B-5G 出土。残存長 3.5 cm、
 幅 1.7 cm、厚さ 5 mm。
 53-18 鉄器。B-6G 出土。残存長 6.4 cm、幅 3.8 cm、厚さ 2 cm。断面形はVの字形。 54-6 鉄器。C-6G 出土。残存長 3.2 cm、幅 9 mm、
 厚さ 2 mm。
 54-1 鉄器。D-5G 出土。残存長 7.2 cm、幅 3.1 cm、

VI. 社裏南遺跡

1. 遺跡の概観

社裏南遺跡は、社裏遺跡の南へ約125mの所にある。荒川左岸の自然堤防上に立地し、標高は約46.6 mを測る。

今回の調査により火葬墓2基、土塀1基が検出された。基準点の座標は、No. 1-X-+16,145.0m, Y=-45,770.0m, No. 2-X-+16,115.0m, Y=-45,770.0mである。

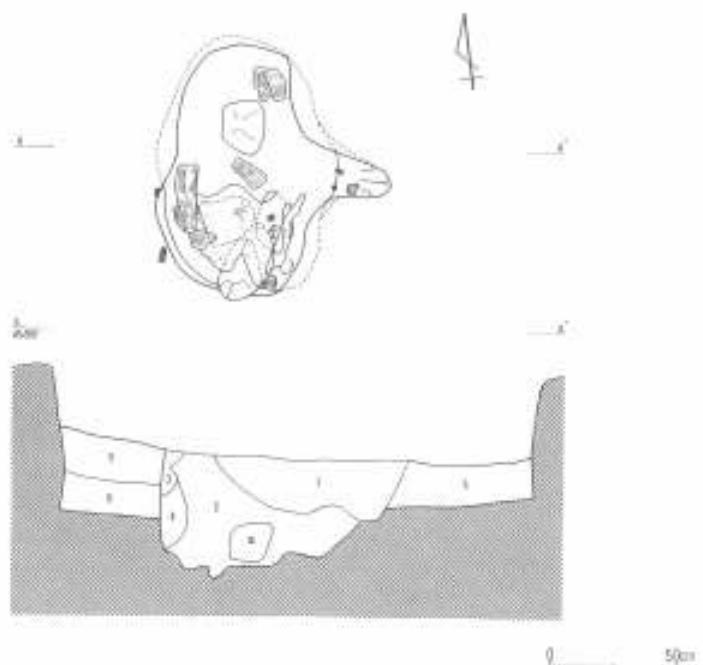
2. 遺構と遺物

1号火葬墓(第56図、図版7)

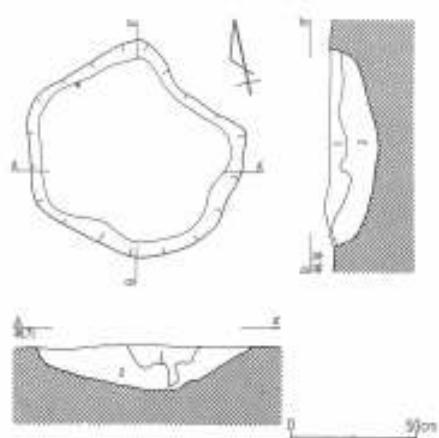
位置 本遺構は、調査区の中央に検出され、平面概要形は隅丸の凸形を呈していた。土層は、1層炭化物・骨を含む褐色土・2層炭化物・骨を含む暗褐色土、3層焼土、4層黒褐色土、5層褐色土、6層暗褐色砂層であった。

規模 長軸の長さ 1 m、短軸の長さ 90 cm、深さ 45 cm を測る。

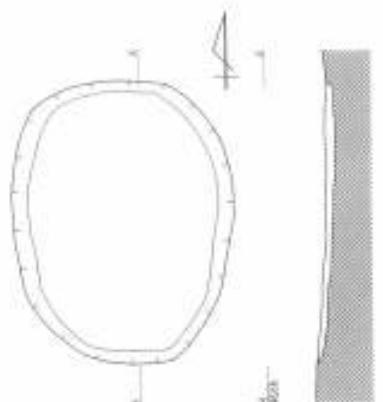
遺物 人骨 1 体分が出土したと思われる。



第56図 1号火葬墓



第57図 2号火葬墓

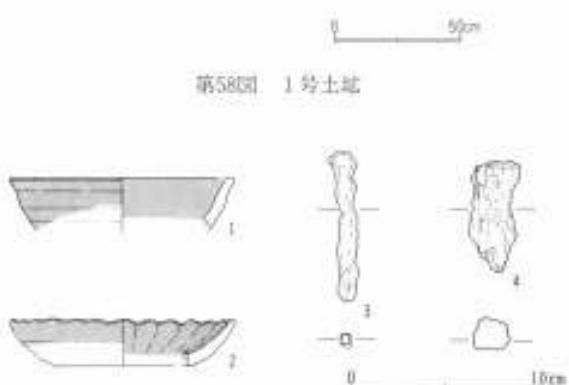


2号火葬墓 (第57図)

位 置 本遺構は、1号火葬墓の西6mの所で検出
概 要 され、平面形は五角形を呈していた。覆土は
1層炭化物・骨を含む黒色土、2層褐色土で
あった。

規 模 A-A'断面の長さ85cm、B-B'断面の長さ
78cm、深さ20cmを測る。

遺 物 骨が出土した。



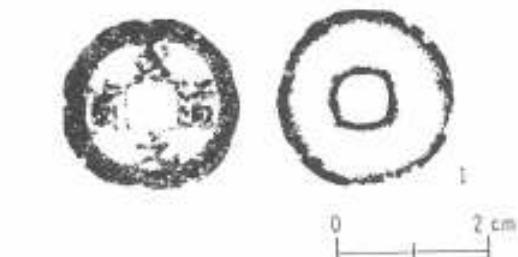
第58図 1号土塚

1号土塚 (第58図)

位 置 本遺構は、1号火葬墓の南西3mの所に検出され、平面形は橢円形を呈していた。覆土は炭化物を含む暗褐色土であった。

規 模 A-A'断面の長さ1.11m、短軸の長さ87cm、
深さ4cmを測る。

遺 物 検出されなかった。



第59図 古墳南遺跡出土古銭

古墳南遺跡出土古銭 (第59・60図)

59-1 小皿 (瀬戸)。口径11.7cm、残存高2.2cm。
中粒砂。地の色調は灰白色。灰釉。残存率は口縁
の半。

59-2 菊皿 (瀬戸)。口径11.7cm、底径7.4cm、器
高2.5cm。地の色調は淡黄褐色。灰釉。残存率は
口縁の半。

59-3 鉄器 (釘)。残存長78cm、幅4mm、厚さ5mm。
断面形は長方形。

59-4 鉄器。残存長4.8cm、幅1.6cm、厚さ1.1cm。

60-1 古銭。至道元宝 (行書体)。直径2.4cm。銅銭。

VII. 古墳南遺跡・古墳北遺跡・古墳東遺跡出土の人骨及び馬歯等について

早稲田大学考古学研究室 金子 浩昌

古墳・古墳北・古墳東遺跡からは土葬の人骨2体、火葬の人骨1体とウマの臼歯等が出土している。それらの概要を次に報告する。

1. 古墳北遺跡A区1号土葬墓出土の人骨

この人骨は頭位を南西に向け左側を下にした倒臥の姿勢で、下肢を股関節及び膝関節で強く曲げて埋葬されたようである。ただ、頭部については骨の腐蝕が著しいので正面向きか、側面かを判断することはできなかった。しかし、下肢の位置が身体の正中線上にないので、側面を向いていたのである。下肢の曲げはあまり強くはない。人骨の性別、大きさを判定するに足る骨の保存は既にみられなかったが、熟年で、特にきやじやな骨であると

は見受けられず、男性の可能性はあろう。

2. 社裏遺跡A区 2号土葬墓検出の人骨

この埋葬墓の人骨も西面するが、頭位を北に向けていた。頭骨及び脊柱の曲り具合から、右側を下にした側臥で、下肢はほぼ正座のような組み方ではなかったかと思われる。

本人骨はその検出の当初より骨の保存は極端に悪く、頭蓋及び脊柱はかろうじてその痕跡を、そして下肢の太い骨のみがようやく一部の形を保つ程度であった。筆者への送付の際はそれがさらに限られたものになっていた。大腿骨及び胫骨とみられる骨が確められた。おそらく熟年、性別は不明であるが、特にきやしゃな様子は見られなかった。

3. 社裏遺跡B区で採集された骨片

No.1：肋骨片であろうと思われる薄い骨片

No.2：やや大型の海綿質のブロックよりなる骨片である。

No.3：肢骨の一部破片である。

No.4：緻密質の部分のみの残った破片。

No.5：海綿質のみの3片。

以上の骨片はいずれも小骨片であって人骨と断定するのは困難であるが、しかし、他の動物、例えばウマの骨であることを積極的に示す骨でもなかった。これらの骨はB区の基石遺構から出土しているものであった。

4. ウマの歯

社裏遺跡B区 1号集石遺構 No.6

ここからはウマの歯の断片が出土しているが、No.6の歯は完全ではないが原形をとどめるものである。

歯の位置 左側下顎第2臼歯

咬合面が腐蝕して原高は不明であるが、現高53.0mm、歯冠長23.0mm、周幅は不明。（エナメル質部分のみでの計測）

成獣であるが、き程年をとらない個体のようである。歯の大きさからみる限り中型馬で、明治前の改良以前のウマであろう。

5. 社裏北遺跡

1号火葬墓 人骨

21号土壤No.1 微小骨片

C—5 グリッドNo.1 ウマの歯の破片

6. 社裏南遺跡 1号火葬墓

この火葬墓は一個体分の人骨であろうが、強い火力のために多くの骨は殆んど形をとどめない状態である。大型の骨はきれつと同心円状の割れで細片化が特に強い。原形をとどめていたのは指骨末節の骨1点、中節骨の略完存1点であった。成人骨である。

三尻遺跡群　社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡
写　真　図　版



社裏遺跡航空写真

図版 2



1. 社裏遺跡遠景



2. 社裏遺跡 A 区



3. 1号土葬墓



4. 1号土葬墓



5. 1号土葬墓



6. 2号土葬墓



7. 2号土葬墓



8. 2号土葬墓

図版 3



1. 社裏遺跡 B区全景



2. B区 1号集石遺構



3. 1号集石遺構出土骨(3)



4. 1号集石遺構出土馬齒(6)



5. 社裏遺跡 C区全景



6. C区 3号集石遺構

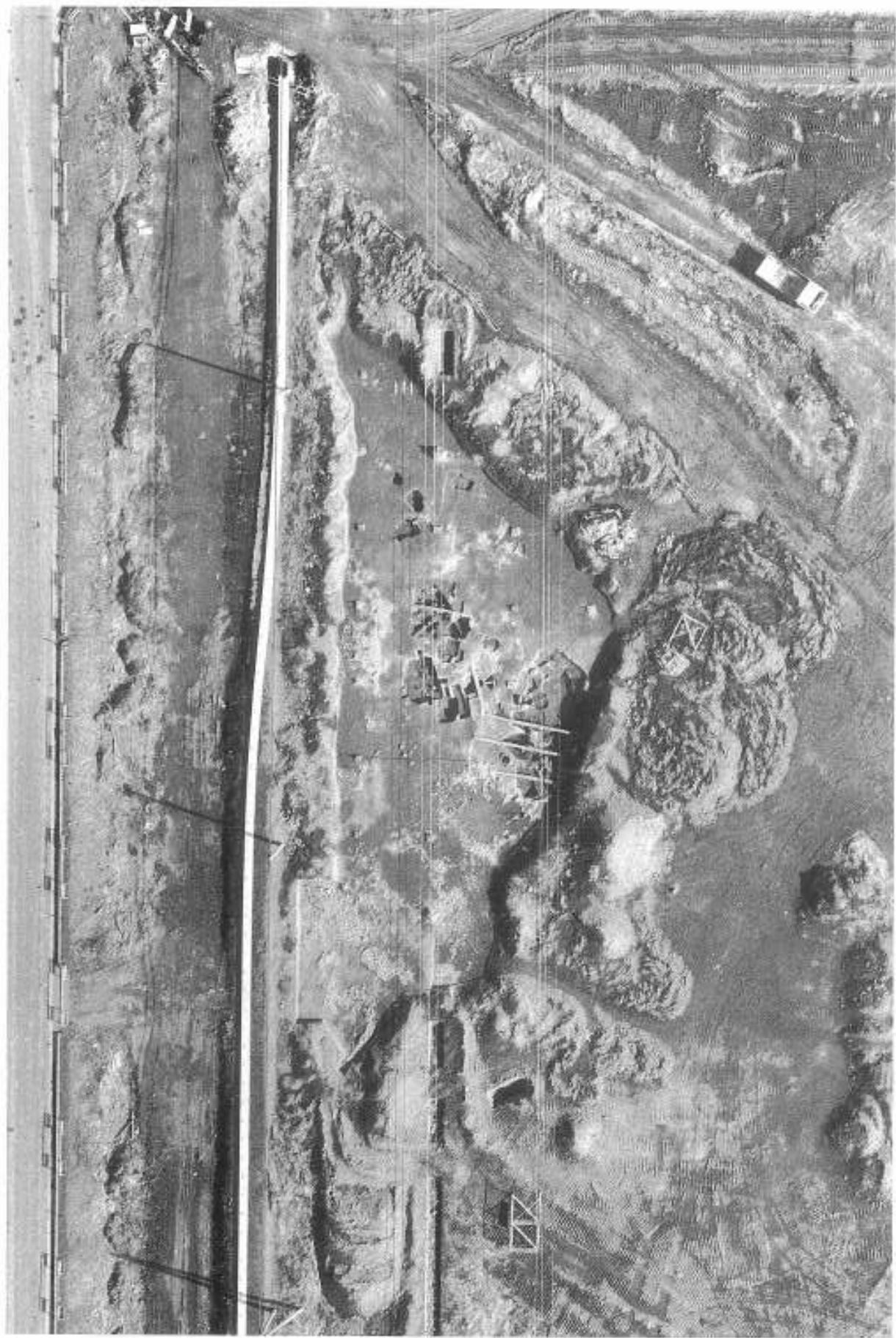


7. 社裏北遺跡全景



8. 9—25号土壙

図版4



社裏北遺跡航空写真



1. 5号土塙出土遺物



2. 9-11号土塙



3. 9号土塙出土古銭



4. 9号土塙出土古銭



5. 13号土塙出土遺物 (22-10)



6. 15-18号土塙



7. 18号土塙出土遺物 (31-5)



8. 21号土塙出土遺物 (No. 2)

图版6



1. 24~25号土壤



2. 26~64号土壤



3. 26~64号土壤



4. 26~36+42号土壤



5. 48~53号土壤



6. 39号土壤出土遗物 (46—5)



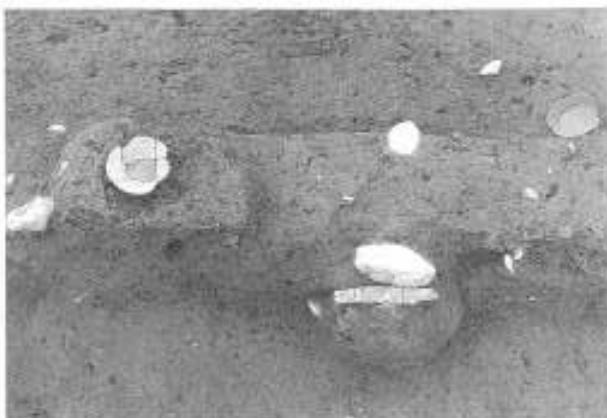
7. 42号土壤出土遗物 (46—7)



8. 48号土壤出土遗物 (46—12)



1. 60号土壤出土遺物 (46-17)



2. 62・63号土壤出土遺物 (46-18・23・25)



3. 63号土壤出土遺物 (46-22)



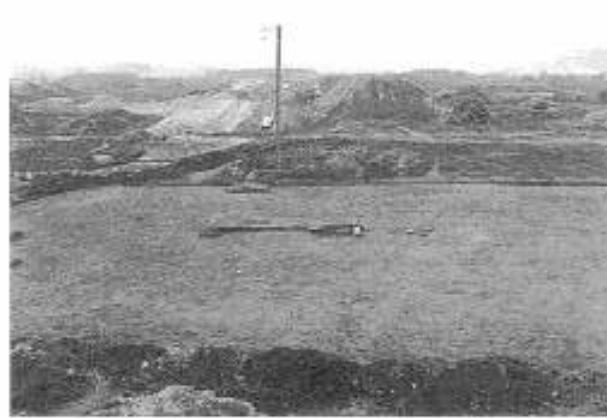
4. 63号土壤付近出土遺物 (46-21)



5. 23号土壤出土遺物 (38-1)



6. 1号ピット出土遺物 (46-19・20)

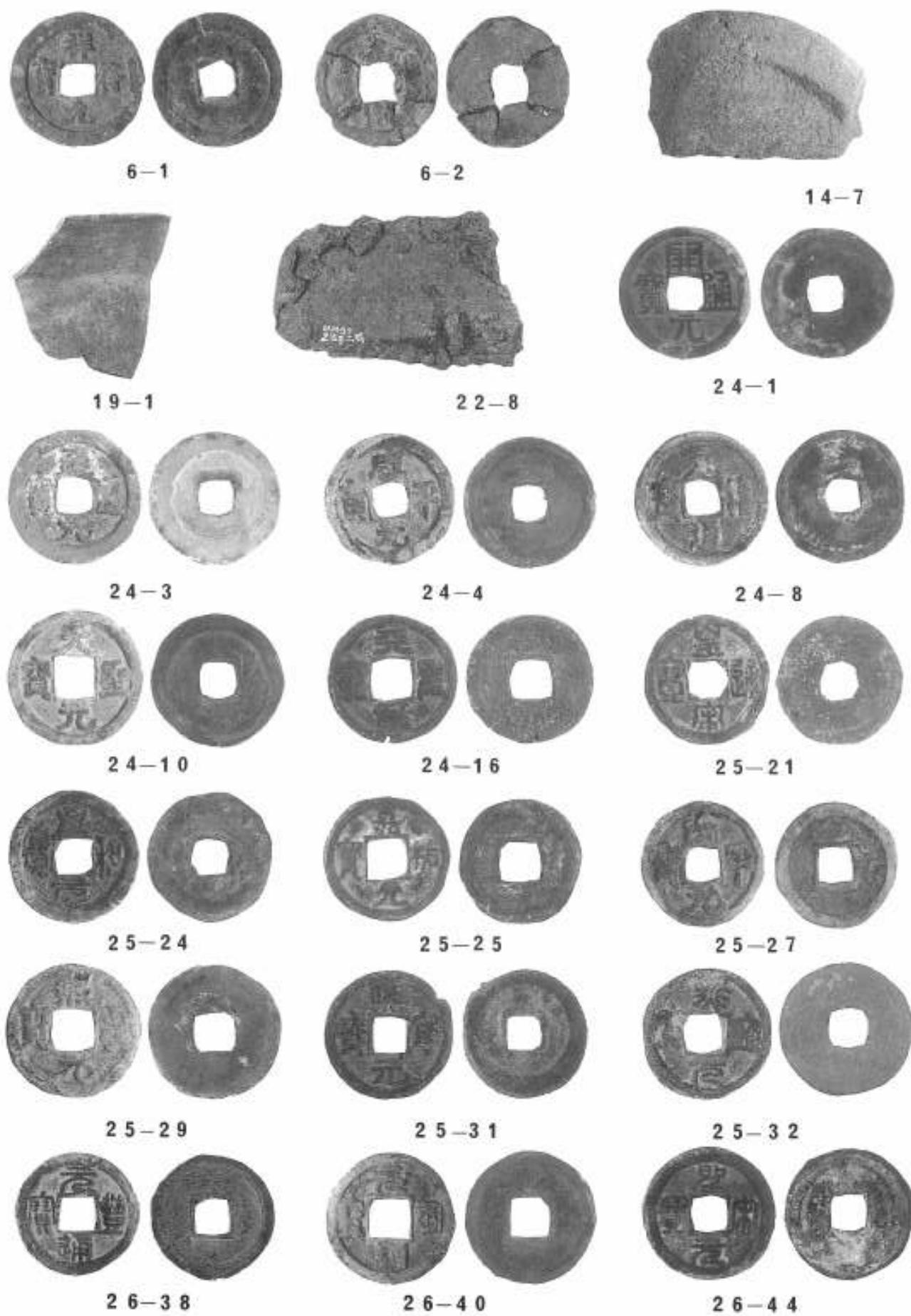


7. 社裏南遺跡



8. 社裏南遺跡 1号火葬墓

図版 8

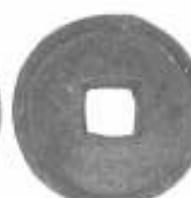




26-47



26-49



27-60



22-2



22-6



31-5



36-1



36-3



31-4



50-1



50-2



46-7



46-12



46-17



46-18



46-10



46-21



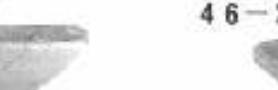
46-19



46-5



46-23



46-20



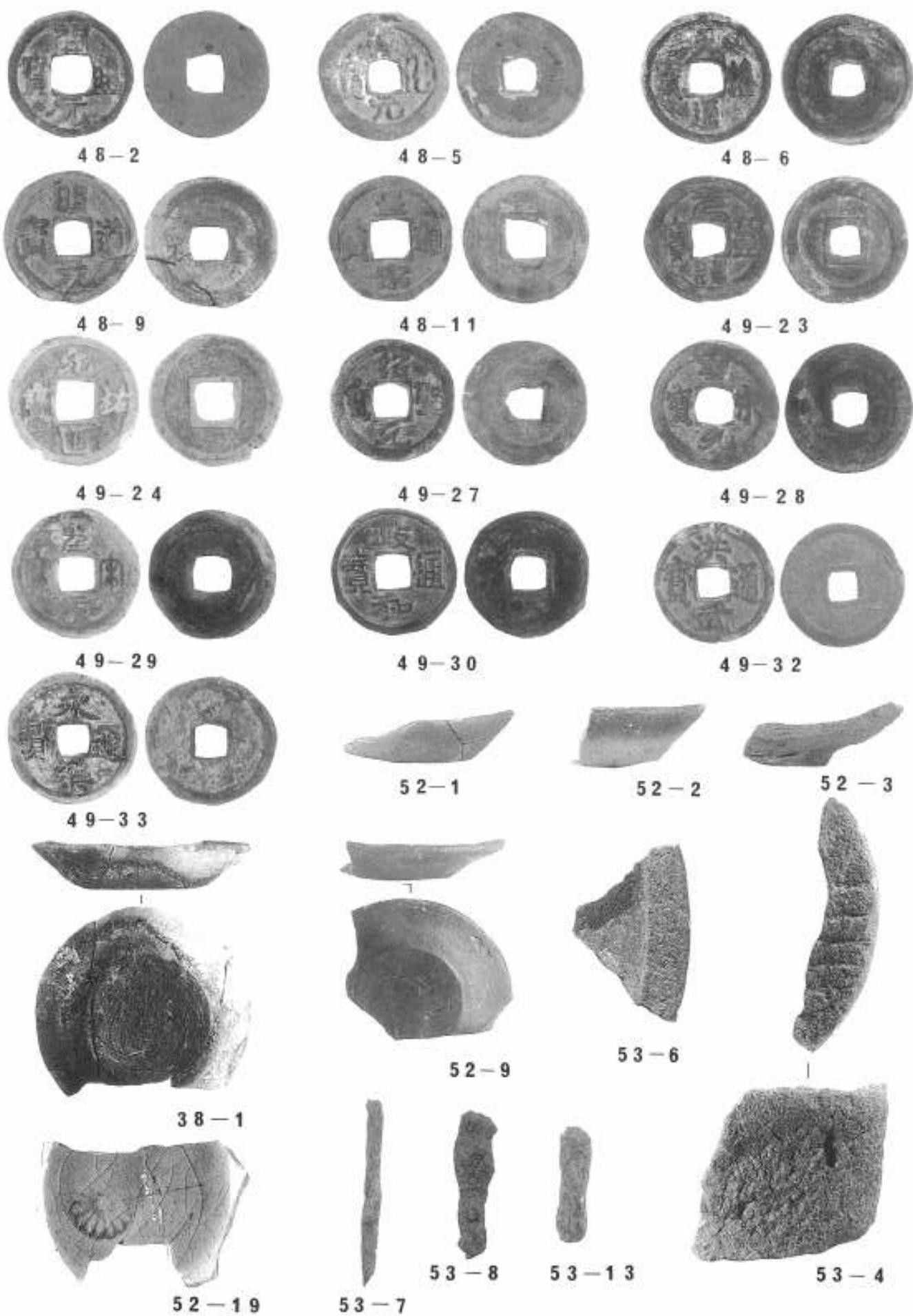
46-22



46-25



図版10



平成元年3月31日 発行

昭和63年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

三尻遺跡群 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡

編集発行 埼玉県熊谷市教育委員会

印 刷 株式会社 博 文 社
